

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

——六国史による——

竹 居 明 男

はじめに

わが国の天皇と仏教との関わりは、ようやく近時、様々な角度から注目されるに至り、前近代の天皇が、我々の想像以上に仏教と深い関わりを有していた点が、改めて明らかにされてきている。そして、その起源もかなり古い時期にさかのぼりうることも予想されるが、現時点ではなお、六世紀半ば頃の仏教伝来以後、どのようにして天皇と仏教との深い関わりが形成されてきたのかを、時代を追って体系的に考察したものは見当たらないようである。

特に、天皇の居住する宮廷という空間内における仏事あるいは仏教的設備を通して、天皇及びその周辺への仏教浸透過程をうかがう点に関して言えば、管見の限りでは鶴岡静夫「宮中御窟院」(『古代中世宗教史研究』所収、初出は昭和四十八年)、舟ヶ崎正孝「看病禪師と内道場僧」(『国家仏教変容過程の研究』所収、初出は昭和五十年)、山折哲雄「天皇霊と呪師」(『日本人の靈魂観』所収、初出は昭和五十年)、蘭田香融「わが国における内道場の起源」(『仏教

の歴史と文化』所収、昭和五十五年）などはいずれも貴重な業績ではあるが、やや散発的であり、近年の古代史研究の成果を集約した『日本の古代』シリーズでも、右の問題に関しては第七卷（昭和六十一年）に岸俊男「天皇と出家」が収められるにとどまった。

このような現状に鑑み、今後の研究に資すべく、六国史の記事より、宮中（内裏）ないし宮城（大内裏）における仏事及び仏教的設備に関する記事を網羅的に収集、揭示し、さらに利用の便を考慮して若干の加工を施した次第である。

* * *

史料本文凡例

一、六国史より、宮中（内裏）ないし宮城（大内裏）、及び広く京内や後院における仏事（狹い意味の仏事・法会等に限らず、広く仏教に関わる事柄を含む）と仏教的施設に関する記事を抜粋し、欽明天皇以後の歴代天皇ごとに、編年順に記事を配列した。

一、原則として一記事ごとに年月日の日付を立て、全体を通して番号を付するとともに、日付を表わす干支は省略した。ただし、数日にまたがる仏事等で、記事が複数条にわたるものは、これを一連のものとして数え、例えば○○年○○月○日～○日のように項目を立てるとともに、この間の記事は日がかわることによって干支も併せ記した。したがって○日～○日の表示は、必ずしも仏事の初日と最終日を示すものではない。

一、六国史の欠巻部分は、類聚国史及び日本紀略を対象とし、いずれも新訂増補国史大系本によったが、一部返り点・文字等を改めたところがある。

一、僧侶の卒伝中の記事も、年代の明らかなそれは可能な限り拾って当該年代中に配列することに意を用いた。これらを含め、項目として掲げた日付と典拠の日付とが一致しない場合のみ、〔 〕内の典拠欄に年月日条を併せ記した。

一、それぞれの記事ごとに、場所を示す語句には――、仏事内容に関わる語句には――、また固有名の明らかな僧侶名には。を横に付し、さらにこれらに基づいて索引を作成した。索引の凡例は、その直前に記す。

一、その他、適宜類推されたい。

一、なお、当編年史料集成に関連した拙稿として、先に『続日本後紀』の「物佐」記事」、『文化史学』第四五号、平成元年）を公表した。

欽明天皇

宣化天皇四年（約）十二月五日即位

欽明天皇三十二年（約）四月十五日崩御

敏達天皇

敏達天皇元年（約）四月三日即位

同十四年（約）八月十五日崩御

用明天皇

敏達天皇十四年609九月五日即位

用明天皇二年609四月九日崩御

1. 二年609四月二日

是日、天皇得病、還入於宮。群臣侍焉。天皇詔群臣曰、朕思欲婦三宝。卿等議之。群臣入朝而議。(中略)蘇我馬子宿禰大臣曰、可隨詔而奉助。詎生異計。於是皇弟皇子皇弟皇子者穴穗部皇子、即天皇庶弟引豊国法師欠名入於内裏。(書紀)

崇峻天皇

用明天皇二年609八月二日即位

崇峻天皇五年609十一月三日崩御

推古天皇

崇峻天皇五年609十二月八日即位

推古天皇三十六年628三月七日崩御

2. 十四年609

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

是歲、皇太子亦講法華經於岡本宮。天皇大喜之、播磨国水田百町施于皇太子。〔書紀〕

舒明天皇

舒明天皇元年 629 正月四日即位

同十三年 641 十月九日崩御

皇極天皇

皇極天皇元年 645 正月十五日即位

同四年 648 六月十四日讓位

孝德天皇

皇極天皇四年 648 六月十四日即位

白雉五年 654 十月十日崩御

3. 白雉二年 651 十二月晦日

於味經宮請二千一百余僧尼、使誦一切經。是夕、燃二千七百余燈於朝庭内、使誦安宅・土側等經。於、是、天皇從於大郡、遷居新宮、号曰難波長柄豊碕宮。〔書紀〕

4. 白雉三年⁶⁶⁸四月十五日〜二十日

壬寅。請_レ沙門惠隱於内裏、使_レ講_二無量寿經_一。以_二沙門惠資_一為_二論議者_一、以_二沙門一千_一為_二作聽衆_一。丁未。罷_レ講。〔書紀〕

5. 白雉三年⁶⁶⁸十二月晦日

請_二天下僧尼於内裏_一、設_二齋大捨燃燈_一。〔書紀〕

齊明天皇

齊明天皇元年⁶⁶⁹正月三日重祚

同七年⁶⁶⁹七月二十四日崩御

6. 六年⁶⁶⁹五月

是月、有司奉_レ勅造_二一百高座、一百衲袈裟_一、設_二仁王般若之會_一。〔書紀〕

*右の記事には開催場所の明記が無いが、いわゆる仁王会の初例として掲げた。

天智天皇

齊明天皇七年⁶⁶⁹七月二十四日称制

天智天皇七年⁶⁶⁹正月三日即位

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

わが国宮廷における仏事に關する編年史料

同十年671十二月三日崩御

7. 十年671十月八日

於内裏、開三百仏眼。〔書紀〕

8. 十年671十月十七日

天皇疾病弥留。勅喚東宮引入臥内、詔曰、朕疾甚。以後事属汝、云々。於是再拜称疾固辞不受。〔中略〕便向於内裏仏殿之南、踞坐胡床、剃除鬢髮、為沙門。〔書紀〕

9. 十年671十一月二十三日

大友皇子、在於内裏西殿織仏像前。〔書紀〕

弘文天皇

天智天皇十年671十二月五日即位

天武天皇元年672七月二十三日崩御

天武天皇

天武天皇二年673二月二十七日即位

朱鳥元年680九月九日崩御

10. 九年₈₃₀五月一日
是日、始説_二金光明經_一于宮中及諸寺_一。〔書紀〕
11. 十二年₈₃₃夏
是夏、始請_二僧尼_一安_二居于宮中_一。因簡_二淨行者卅人_一出家。〔書紀〕
12. 十三年₈₃₄閏四月十六日
設_二齋於宮中_一。因以赦_二有罪舍人等_一。〔書紀〕
13. 十四年₈₃₅四月十五日
始請_二僧尼_一、安_二居于宮中_一。〔書紀〕
14. 十四年₈₃₅十月
是月、説_二金剛般若經_一於宮中_一。〔書紀〕
15. 朱鳥元年₈₃₆五月二十四日
天皇体不安。因以於_二川原寺_一説_二藥師經_一、安_二居于宮中_一。〔書紀〕
16. 朱鳥元年₈₃₆七月二日
是日、僧正僧都等參_二赴宮中_一而悔過矣。〔書紀〕
17. 朱鳥元年₈₃₆七月八日
請_二一百僧_一、説_二金光明經_一於宮中_一。〔書紀〕
18. 朱鳥元年₈₃₆七月二十八日

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

わが国宮廷における仏事に關する編年史料

19. 選淨行者七十人、以出家。乃設齋於宮中御窟院。〔書紀〕
朱鳥元年 688 八月二日

度僧尼并二百、因以坐三百菩薩於宮中、讀觀音經二百卷。〔書紀〕

持統天皇

朱鳥元年 688 九月九日称制

持統天皇四年 690 正月一日即位

同十一年 697 八月一日讓位

大宝二年 702 十二月二十二日崩御

20. 四年 690 二月十九日

設齋於内裏。〔書紀〕

21. 四年 690 五月十五日

於内裏始安居講說。〔書紀〕

22. 七年 693 五月十五日

設無遮大会於内裏。〔書紀〕

23. 七年 693 九月十日

為_二清御原天皇_一設_二無遮大会於内裏_一、繫囚悉原遣。〔書紀〕

*万葉集162番歌参照。

24. 十一年₁₁三月八日

設_二無遮大会於春宮_一。〔書紀〕

文武天皇

文武天皇元年₁₁八月十七日即位

慶雲四年₁₁六月十五日崩御

25. 大宝三年₁₁四月二日

奉_二為太上天皇_一、設_二百日齋於御在所_一。〔統紀〕

元明天皇

慶雲四年₁₁七月十七日即位

和銅八年₁₁九月二日讓位

養老五年₁₁十二月七日崩御

わが国宫廷における仏事に関する編年史料

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

元正天皇

靈龜元年(724)九月二日即位

養老八年(724)二月四日讓位

天平二十年(749)四月二十一日崩御

聖武天皇

神龜元年(724)二月四日即位

天平感宝元年(749)七月二日讓位

天平勝宝八年(756)五月二日崩御

26. 神龜二年(726)閏正月十七日

請僧六百人於宮中、誦誦大般若經。為除災異也。〔統紀〕

27. 神龜四年(728)二月十八日

請僧六百、尼三百於中宮、令誦金剛般若經。為銷災異也。〔統紀〕

28. 神龜四年(728)十二月十日(先帝元正の代以來)

勅曰、僧正義淵法師俗姓市往氏也、(中略)自先帝御世迄于朕代、供奉内裏、無一咎愆。念斯若人、年德共隆。

宜改市往氏、賜岡連姓、伝其兄弟。〔統紀〕

29. 天平元年(729)六月一日

講仁王經於朝堂及畿内七道諸国。〔統紀〕

* 法隆寺伽藍縁起并流記資財帳參照。

30. 天平七年(735)五月二十四日

於宮中及大安・薬師・元興・興福四寺、転読大般若經。為消除災害、安寧国家也。〔統紀〕

31. 天平九年(737)五月一日

請僧六百人于宮中、令讀大般若經焉。〔統紀〕

32. 天平九年(737)八月十五日

為天下太平国土安寧、於宮中一十五处、請僧七百人、令轉大般若經・最勝王經、度四百人。四畿内

七道諸国五百七十八人。〔統紀〕

33. 天平九年(737)十月二十六日

講金光明最勝王經于大極殿。朝廷之儀一同元日。請律師道慈為講師、堅藏為読師。聴衆一百、沙弥一

百。〔統紀〕

34. 天平十六年(744)三月十四日

運金光明寺大般若經致紫香樂宮。比至朱雀門、雅樂迎奏、官人迎礼。引導入宮中奉置大安殿、請僧

二百、転読一日。〔統紀〕

35. 天平十六年(744)三月十五日

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

難波宮東西樓殿、請僧三百人、令誦大般若經。〔統紀〕

36. 天平十七年(49)八月十五日

設無遮大会於大安殿焉。〔統紀〕

37. 天平十八年(50)六月十八日以前(天平七年以後)

僧玄防死。(中略) 天平七年隨大使多治比真人広成還帰。寶經論五千余卷及諸佛像來。皇朝亦施紫袈裟著之。尊為僧正、安置内道場。自是之後、榮寵日盛、稍乖沙門之行。〔統紀〕

38. 天平十九年(51)五月十五日

於南苑講說仁王經。令天下諸国亦同講焉。〔統紀〕

39. 天平勝宝元年(52)閏五月九日

於宮中度二千人。〔統紀〕

孝謙天皇

天平勝宝元年(52)七月二日即位

天平宝字二年(53)八月一日讓位

40. 天平勝宝二年(54)五月八日

於中宮安殿、請僧一百、講仁王經。并令左右京、四畿内、七道諸国講說焉。〔統紀〕

41. 天平宝字元年(759)七月二十四日

於_二宮中_一設_レ齋、講_二仁王經_一焉。〔統紀〕

42. 天平宝字四年(762)二月二十九日

設_二仁王會_一於宮中及東大寺。〔統紀〕

43. 天平宝字四年(762)閏四月二十三日

轉_レ讀大般若經於宮中。〔統紀〕

淳仁天皇

天平宝字二年(760)八月一日即位

同八年(766)十月九日讓位

天平神護元年(769)十月二十三日崩御

称徳天皇

天平宝字八年(766)十月九日重祚

神護景雲四年(770)八月四日崩御

44. 神護景雲元年(767)八月八日

わが国宮廷における伝事に関する編年史料

わが国宮廷における仏事に關する編年史料

45. 屈僧六百口、於西宮寢殿設齋。以慶雲見也。〔統紀〕

神護景雲元年(70)十月二十四日

御大極殿、屈僧六百、轉讀大般若經。奏唐高麗樂、及内教坊鬪歌。〔統紀〕

46. 宝龜元年(70)正月十五日

設仁王會於宮中。〔統紀〕

47. 宝龜元年(70)八月四日以前

下野国言、造薬師寺别当道鏡死。(中略)略涉梵文、以禪行聞。由是入内道場列為禪師。〔統紀宝龜三年四月七日条〕

*称徳女帝崩御を、一往の下限とした。

48. 宝龜元年(景雲四年)秋

贈僧正伝燈大法師位勤操卒云々。景雲四年秋、有勅於宮中及山階寺度一千僧。法師則千勤之一也。〔類史天長四年五月八日条〕

光仁天皇

宝龜元年(70)十月一日即位

天心元年(70)四月三日讓位

同年(70)十二月二十三日崩御

49. 宝龜三年(726)六月十五日

設仁王會於宮中及京師大小諸寺、并畿内七道諸国分金光明寺。〔統紀〕

50. 宝龜六年(729)十月十九日

屈僧二百口、誦大般若經於内裏及朝堂。〔統紀〕

51. 宝龜七年(730)五月三十日

屈僧六百口、誦大般若經於宮中及朝堂。〔統紀〕

52. 宝龜八年(731)三月二十一日

屈僧六百口、沙弥一百口、転誦大般若經於宮中。〔統紀〕

桓武天皇

天応元年(728)四月三日踐祚

同年(728)四月十五日即位

延暦二十五年(788)三月十七日崩御

53. 延暦元年(752)七月二十一日

松尾山寺僧尊鏡、生年百一歳。請入内裏、叙位大法師。優高年也。〔統紀〕

54. 延暦十二年(765)正月十四日

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

- 請_三卅九僧於宮中、始誦_三藥師經_一。令_三天下_一斷_中殺生_上七日。〔類史〕
55. 延曆十三年_〇九月二十九日
請_三百法師、講_三仁王經_一於新宮。〔類史〕
56. 延曆十五年_〇十月二十一日〜二十七日
先_三是請_三卅僧_一、一七日於_三宮中_一行_三藥師悔過_一。是日、事畢。〔後紀同年十月二十七日條〕
57. 延曆十六年_〇五月十九日
於_三禁中并東宮_一、轉_三誦_三金剛般若經_一。以_三有_三恠異_一也。〔紀略〕
58. 延曆十六年_〇五月二十三日
於_三禁中_一行_三灌頂經法_一。〔類史〕
59. 延曆十八年_〇六月二十七日
屈_三僧三百人、沙弥五十人於禁中及東宮朝堂、奉_三誦_三大般若經_一。〔後紀〕
60. 延曆二十一年_〇正月十三日
勅、今聞、三論法相、二宗相争、各專_三二門_一。彼此長短、若偏被_レ抑、恐有_三衰微_一。自今以後、正月最勝王經并
十月維摩經二会、宜_レ請_三六宗_一以_レ広_中學業_上。〔類史〕
61. 延曆二十四年_〇二月六日
令_三僧一百五十人_一、於_三宮中及春宮坊等_一、誦_三大般若經_一。造_三一小倉於靈安寺_一、納_三稻卅束_一。又別収_三調綿百五十斤、庸綿百五十斤_一。慰_三神靈之怨魂_一也。〔後紀〕

62. 延曆二十四年₈₀₅三月二十七日

於_三殿上_一行_三灌頂法_一。〔後紀〕

63. 延曆二十四年₈₀₅春

延曆寺座主僧伝澄大法師位門澄卒。(中略)廿四年春、最澄師入唐以後、法師依詔於_三紫宸殿_一修_三念五仏頂法_一。

即預_三得度_一。〔統後紀天長十年十月二十日条〕

64. 延曆二十四年₈₀₅八月九日

請_三入唐求法僧最澄_一於_三殿上_一、悔過_三誦經_一。最澄獻_三唐国仏像_一。〔後紀〕

65. 延曆二十四年₈₀₅九月十七日

令_三僧最澄_一於_三殿上_一行_三毗盧舍那法_一。〔後紀〕

66. 延曆二十四年₈₀₅十月二十八日

於_三前殿_一誦_三經_一三日。〔後紀〕

67. 大同元年₈₀₅二月二十三日

先是尚縫正四位下五百井女王為_レ令_三聖躬平善_一、造_三写薬師仏像并法華經_一。至_レ是功畢。因屈_三僧廿一人_一、設_三齋於前殿_一。百官供事。〔後紀〕

平城天皇

延曆二十五年₈₀₆三月十七日踐祚

わが国宫廷における仏事に関する編年史料

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

大同元年₈₀₀五月十八日即位

同四年₈₀₉四月一日讓位

天長元年₈₂₄七月七日崩御

68. 大同元年₈₀₀五月六日

行_{三七七}御齋於寢殿。〔後紀〕

69. 大同元年₈₀₀五月七日

奉_三讀大般若經於大極殿并東宮。〔後紀〕

70. 大同三年₈₀₈三月八日

内裏及諸司左右京職講_三說仁王經。為_レ濟_三疫病_一也。〔類史〕

71. 大同四年₈₀₉閏二月十七日

屈_三清行僧廿人於内裏_一讀經。〔後紀〕

72. 大同四年₈₀₉四月一日

讀_三經宮中_一。又遣_三使於京下諸寺_一誦經。〔後紀〕

嵯峨天皇

大同四年₈₀₉四月一日踐祚、十三日即位

弘仁十四年(823)四月十六日讓位

承和九年(837)七月十五日崩御

73. 大同四年(819)七月一日

行藥師法於小安殿。七日。以天推国高彥天皇病未癒也。〔類史〕

74. 大同五年(820)正月十四日

内供奉十禪師、傳燈、大法師位。光定卒。〔中略〕五年春正月十四日、宮中齋會、蒙制得度。天台之度者、從此為濫

觴。〔文実天安二年八月十日条〕

75. 大同五年(820)七月二十日

延清行禪師、侍上病也。〔類史〕

76. 大同五年(820)八月十一日

令僧一百五十人於太政官、限七箇日、行藥師法上。〔類史〕

77. 弘仁四年(813)正月十四日

最勝王經講畢。延高学僧十一人於殿上論義。施御被。〔後紀〕

78. 弘仁九年(818)四月二十七日

於前殿講仁王經。緣旱灾也。〔紀略〕

79. 弘仁十年(819)以後

わが国宮廷における仏事に關する編年史料

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

僧正法印大和尚位真雅卒。(中略)十九歳受具足戒。徵侍内裏、於帝御前、誦真言卅七尊梵号。音響清徹、宛如貫珠。聽者莫不絶倒。帝大悦之。〔三実元慶三年正月三日条〕

*真雅十九歳は、弘仁十年に相当する。

淳和天皇

弘仁十四年(833)四月十六日踐祚、二十七日即位

天長十年(833)二月二十八日讓位

承和七年(840)五月八日崩御

80. 弘仁十四年(833)七月十七日

奉幣雨師神祈雨、未_レ有_二徵_レ応_一。仍城内設_二法_レ筵_一、一七箇日誦_レ經。禁_二殺生_一也。〔紀略〕

*城内は、域内とみるべし、との説あり。

81. 弘仁十四年(833)九月二十五日

請_二僧_レ十口、沙弥十口於内裏、奉_レ誦_二金剛般若經_一。〔紀略〕

82. 弘仁十四年(833)十月十三日

於_二皇后院_一令_二大僧都空海法師_一行_二息災之法_一、三日三夜。〔類史〕

83. 弘仁十四年(833)十二月二十四日

請大僧都長惠・少僧都勤藻・大法師空海等於清涼殿、行大通方広之法。終夜而畢也。〔類史〕

84. 天長元年824正月十四日

最勝会衆僧於殿上論議。例也。〔類史〕

85. 天長二年829閏七月十九日

令宮中左右京五畿内七道諸国講說仁王護国般若經。承前之例、咒願文者、予仰當時達文章者作。少僧都依燈大法師位空海被記東宮講師。卒爾滯思、講前即成。其詞曰、(中略) 謹天長二年閏七月十九日、於宮中及五畿七道、設二百師子座、延八百怖魔人、一日兩時、奉演仁王護国般若經。(中略) 謹於紫微極殿、青春鳳樓、五畿之内、七道諸国、殿飾道場、陳列妙供、敷二百師子座、屈八百龍象衆、奉宣五種之般若、守護内外之国土、仰願云々。〔類史〕

86. 天長三年828六月六日

屈二百僧於御在所及大極殿、限三箇日、転読大般若經。防疫癘、祈豐年也。〔類史〕

87. 天長四年829五月二十一日

遣使畿内七道諸国、走幣祈雨。屈二百僧於大極殿、転読大般若經三个日。〔紀略〕

88. 天長四年829五月二十六日

依祈雨、令少僧都空海請仏舍利内裏、礼拝灌浴。亥後天陰雨降。数剋而止。湿地三寸。是則舍利靈驗之所感応也。〔類史〕

89. 天長四年829十二月十四日

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

90. 天長六年⁸²⁹二月二十八日
屈請淨行僧百口於大極殿、転読大般若經三箇日。為停地震。〔類史〕
91. 天長七年⁸³⁰春
僧正延祥大法師卒。(中略)天長七年春。於大極殿、説最勝王經。諸宗智者論難鋒起、延祥敏對不滯。聽者莫不歎服。〔文実仁寿三年九月九日条〕
92. 天長七年⁸³⁰五月六日
屈百僧於大極殿、転読大般若經一七日。為除地震及疫癘之災也。〔類史〕
93. 天長七年⁸³⁰閏十二月八日
延名僧十口於禁中、三箇日夜、懺礼仏名經。〔類史〕
94. 天長七年⁸³⁰閏十二月二十四日
少僧都法眼和尚位道昌卒。(中略)天長七年始充延請、奉御所仏名懺悔導師。〔三実貞観十七年二月九日条〕
95. 天長九年⁸³²正月十四日
請僧五口、奉読金剛般若經、兼令神祇官解除。謝物恠也。〔類史〕
- *場所の明示を欠くが、文脈より判断して、採用した。
- 最勝会畢。皇帝御紫宸殿、請僧正護命、大僧都空海、少僧都修円・豊安、律師明福、講師大覚法師等令論議。施御被。〔類史〕

96. 天長九年₈₃₂五月十七日(十九日)

戊申、皇帝遊正寢、請百僧於八省院、讀大般若經。祈雨也。

庚戌、八省院読経、澍雨不降。衆僧暴露中庭、至心誓願。午後微雨。仰大和等四畿内国司、每社充幣料五色絹各一文、名香一兩、龍形料調布五段、令行零事。〔紀略〕

97. 天長十年₈₃₃正月十四日

御紫宸殿、屈延曆寺僧円澄及僧正已下威儀師已上論義。施御被。〔類史〕

仁明天皇

天長十年₈₃₃二月二十八日踐祚

同年₈₃₃三月六日即位

嘉祥三年₈₅₀三月二十一日崩御

98. 天長十年₈₃₃三月一日

僧綱以下高僧數十人來会闕庭、奉賀踐祚。〔統後紀〕

99. 天長十年₈₃₃三月二十日

延三百口僧於大極殿、転読大般若經。以祈年穀兼攘疫氣也。普告天下、禁斷殺生。限以三ケ日。

〔統後紀〕

わが国宫廷における仏事に関する編年史料

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

100. 天長十年⁸³³四月二十一日

延^三十禪師於内裏^一。転^レ經。為^レ可^三遷御^一之故、先鎮^レ之焉。〔統後紀〕

101. 天長十年⁸³³六月七日、八日

壬戌、天皇不^レ予。公卿陪^レ候殿上。西山有^三苾芻^一、其名仙樹。以^レ咒驗^レ稱、与^三僧都等^一俱奉^レ加^三持聖躬^一也。分^レ遣被七条、綿七百屯於七寺、転^レ經薰修。以祈^三翌日之瘳^一。

癸亥、公卿率^三衆僧^一、共侍^三殿上^一。〔統後紀〕

102. 承和元年⁸³⁴正月八日

天皇御^三大極殿^一。聽^レ講^三最勝王經^一。皇太子侍焉。崇朝之講竟而還^三御内裏^一。〔統後紀〕

103. 承和元年⁸³⁴六月十五日

吼^レ說仁王經於紫宸殿、常寧殿及建礼門、八省院諸堂、宮城諸司諸局、東西寺并序羅城門。惣是百講座也。〔統後紀〕

104. 承和元年⁸³⁴六月三十日、七月二日

己酉、延^三百僧於大極殿^一、限^三三ヶ日^一、転^レ讀^三大般若經^一。為^レ祈^三甘澍^一、兼防^三風災^上也。

辛亥、初為^三祈雨^一、転^レ讀^三大般若經^一、期日已滿、晴而無^レ応。由是、転^レ經更延^三二日^一。以効^三精誠^一。〔統後紀〕

105. 承和元年⁸³⁴十二月十九日

大僧都伝灯大法師位空海上奏曰、(中略)然今所^レ奉^レ講^三最勝王經^一。但讀^三其文^一、空談^三其義^一。不^三曾依法画^一像、結^レ壇修行^一。雖^レ聞^レ演^三說甘露之美^一、恐^レ欠^レ嘗^三醍醐之味^一。伏乞、自今以後、一依^三經法^一、講經七日之間、

特撰_二解法僧_一二七人、沙弥_二二七人_一、別荘_二敵一室_一、陳_二列諸尊像_一、奠_二布供具_一、持_二誦真言_一。(中略)勅、依_レ請修_レ之、永為_二恒例_一。〔統後紀〕

*いわゆる後七日御修法恒例化が勅によって認められた記事である。

106. 承和二年₈₃₉六月二十八日

令_二中務省_一進_二仏舍利七粒_一於_二内裏_一。不_レ知其所_レ從來_一。〔統後紀〕

107. 承和二年₈₃₉十二月十六日

四天王寺十禪師准_二梵釈_一・常住_二兩寺僧_一、毎年一口預_二宮中金光明會聽衆_一。〔統後紀〕

108. 承和二年₈₃₉十二月二十日

聖上始於_二清涼殿_一、限_二三夜裏_一、礼_二拜仏名經_一。〔統後紀〕

109. 承和三年₈₄₀正月八日_一十四日

戊申、天皇御_二大極殿_一、聽_レ講_二最勝王經_一。且還_二御紫宸殿_一、以_レ礼_レ仏。

甲寅、最勝會竟。引_二其講師及僧綱等_一、論_二義殿上_一。於是、勅以_二元興寺伝燈大法師位延祥法師_一任_二權律師_一。

〔統後紀〕

110. 承和三年₈₄₀八月二十四日_一二十九日

辛酉、延_二五十口禪僧於八省院_一、転_二讀大般若經_一。以禦_二疫氣_一、諸司醋食。

丙寅、八省院禪僧転_二經竟_一。施_二布帛及度者各一人_一。天皇御_二紫宸殿_一、引_二禪僧中意解者十人_一、令_二一一論義_一。亦

施_二樹衣并御被_一各有_二差_一。〔統後紀〕

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

わが国宮廷における仏事に關する編年史料

111. 承和四年⁸³⁰正月八日〜十四日
壬申、天皇御^三大極殿^一、聽^レ講^三最勝王經^一。皇太子侍焉。崇朝之講竟而變興還宮。
戊寅、大極殿最勝会竟。引^三其講師及智德僧於仁寿殿^一、遞令^三論義^一。訖施^三御被^一。〔統後紀〕
112. 承和四年⁸³⁰七月三日
延^三五十口僧於常寧殿^一、昼則誦經、夜便悔過。以^三内裏有^二物恠^一也。〔統後紀〕
113. 承和五年⁸³⁰正月八日〜十四日
丁卯、(中略)是日、大極殿最勝会之初也。〔統後紀〕
- 癸酉、最勝会竟。更引^三其講師及名僧十余口於禁中^一、令^三論議^一。訖施^三御被^一。〔統後紀〕
114. 承和五年⁸³⁰五月十八日
百僧於^三八省院^一限^三五ケ日^一、^レ転^レ誦^三大般若經^一。為^レ令^三天下豊樂^一也。〔統後紀〕
115. 承和五年⁸³⁰七月二十五日
令^三七大寺僧卅口^一於^三紫宸殿^一、限^三三ケ日^一講^三仁王經^一一百卷。以^三恠異^一也。〔統後紀〕
116. 承和五年⁸³⁰十二月十三日
延^三名僧百口於八省院^一、令^レ転^レ誦^三御願奉写金剛壽命陀羅尼經^一一千軸也。〔統後紀〕
* 「御願奉写金剛壽命陀羅尼經」のことは、同紀同年十月十三日条に見える。
117. 承和五年⁸³⁰十二月十五日〜十八日
己亥、天皇於^三清凉殿^一、修^三仏名懺悔^一。限^三以^三三日三夜^一。律師靜安、大法師願安・実敏・願定・道昌等遞為^三導

師。内裏（公名懺悔自）此而始。

壬寅、（公名懺悔竟）施（導師僧五口、物及得度者各一人）。〔統後紀〕

118. 承和六年（839）正月八日～十四日

辛酉、於（大極殿）始修（最勝會）。

丁卯、最勝會竟。更引（名僧十余人於禁中、令）論議。訖施（御被）云々。〔統後紀〕

119. 承和六年（839）四月二十七日

會（百法師於）八省院、限（三箇日、）轉（大般若經）。以（祈）雨焉。諸司為（之）醋食。〔統後紀〕

120. 承和六年（839）七月五日～八日

甲申、延（僧六十口於）紫宸殿・常寧殿、令（）轉（說）大般若經。以（禁中）有（物）恠（也）。

丁亥、（中略）是日、誦（經）訖。賜（物）各有（差）。復施（大法師僧度者各一人、法師位以下僧各授）一階。〔統後紀〕

121. 承和六年（839）八月二十三日

請（真言僧十六口於）常寧殿、令（）修（息災之法）。有（物）恠（也）。〔統後紀〕

122. 承和六年（839）十二月十五日

勅、以（經）于（興福寺維摩會）講師（之）僧上、亘為（宮中）最勝會講師。自今以後、永為（恒例）。〔統後紀〕

123. 承和七年（840）正月八日～十四日

乙酉、於（大極殿）始修（最勝會）也。

辛卯、最勝會竟。引（名僧於）内裏、令（）論議。訖施（御被）。〔統後紀〕

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

124. 承和七年(41)四月八日

請_二律師_一伝燈_二大法師位_一静安_二於清凉殿_一。始行_二灌仏之事_一。〔統後紀〕

125. 承和七年(41)六月七日

設_二百高座_一於宮中_一、令_レ講_二仁王經_一。為_レ攘_二中外妖祥_一也。晚頭講竟。布施法有_レ差。外記日記云、不行_二衆僧布施_一。所謂_レ先_レ所得者也。〔統後紀〕

126. 承和七年(41)七月二十八日

勅、正月金光明會講師、以_二持律持經及久修練行禪師_一、輪転請用。〔統後紀〕

127. 承和八年(42)正月四日～七日

乙亥、(中略)延_二五十八僧_一於清凉殿_一。謂僧卅九口、自外僧綱。昼_レ誦_二藥師經_一、夜_レ結_二界悔過_一。

戊寅、誦_二經畢_一。施_二衆僧物及度者各一人_一。〔統後紀〕

128. 承和八年(42)正月八日～十四日

己卯、大極殿最勝會之初也。

乙酉、最勝會訖。更引_二其會名僧十余人_一於禁中_一、令_レ論_二義_一。畢施_二御被_一。〔統後紀〕

129. 承和八年(42)五月十四日

請_二名僧於八省院_一、誦_二經禱雨_一。〔統後紀〕

130. 承和八年(42)閏九月十五日

請_二僧廿口、沙弥廿口_一於常寧殿_一、限_二二ヶ日_一、令_レ誦_二經_一。謝_二物恠_一也。〔統後紀〕

131. 承和八年(42)十二月十七日

勅、請僧百口於八省院、限三ケ日、誦大般若經。殊令內記作咒願文。同令五畿内七道諸國誦之。迄于事畢、禁斷殺生。為慧星屢見也。〔統後紀〕

132. 承和九年正月八日～十四日

癸卯、天皇御大極殿、聽講最勝王經。崇朝之講竟而廻御本宮。

己酉、最勝會訖。更引名僧十余人於禁中、令論義。畢施御被。〔統後紀〕

大僧都伝燈大法師位実敏卒。(中略)承和九年於大極殿講最勝王經。皇帝臨聽。実敏問答警策、唇舌紛紜。分決疑滯、毫毛必剖。帝称歎久之。〔文実齊衡三年九月三日条〕

133. 承和九年七月二十日～二十一日

壬子、請百僧於大極殿、限三ケ日。轉誦大般若經。以早也。

癸丑、雨快降、須臾晴。更延誦經二日。〔統後紀〕

134. 承和九年十一月十四日

延三十九僧於本宮禁中、三ケ日令轉誦大般若及金剛般若經。為可遷御、先以鎮謝。〔統後紀〕

135. 承和十年正月八日～十四日

丁酉、皇太子參大極殿最勝會。但不奉音樂。以邊密之内也。

癸卯、最勝會竟。引名僧十余口於紫宸殿令論義。訖施御被。〔統後紀〕

136. 承和十年五月八日

〔又〕為鎮内裏物恠并日異、屈百法師、限三ケ日。誦藥師經於清凉殿、修藥師法於常寧殿、轉大般若

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

於大極殿。諸司酣食、兼禁殺生。〔統後紀〕

137. 承和十年(849)八月二十四日

請三百僧於大極殿、転読大般若經、亦分卅僧於真言院修法。五箇日間、諸司潔齋。為攘物性也。〔統後紀〕

138. 承和十一年(849)正月八日(十四日)

辛卯、於大極殿修最勝会。

丁酉、最勝会竟。更引名僧於内裏、令論義。訖施御被。〔統後紀〕

139. 承和十一年(849)七月十二日

請三百僧於八省院、転読大般若經。祈甘雨。是日雨降。〔統後紀〕

140. 承和十二年(849)正月八日

於大極殿修最勝会之初也。〔統後紀〕

141. 承和十二年(849)三月六日(十一日)

壬子、請名僧百口、限以五箇日、於紫宸・清凉・常寧等殿及真言院、転読大般若經、兼修陀羅尼法。以有物性也。

丁巳、読経事竟。衆僧却帰。勅於二度者各一人并物。〔統後紀〕

142. 承和十二年(849)五月一日(七日)

丁未朔、請三百僧於大極殿、限以三箇日、転読大般若經。以祈甘雨。

己酉、緣雨未降、更延読経二箇日。

辛亥、停三日節、亦更延讀經二箇日。

癸丑、雨猶不休。讀經事畢。衆僧却廻。布施有差。〔統後紀〕

143. 承和十二年⁴⁴⁹九月二十六日

請五十僧於紫宸殿讀經。為息災也。〔統後紀〕

144. 承和十三年⁴⁵⁰正月八日～十四日

庚戌、於大極殿修最勝會。

丙辰、最勝會竟。殊引名僧十余人於禁中、令論義。訖施御被。〔統後紀〕

145. 承和十三年⁴⁵⁰五月十三日

請百僧於八省院、限三箇日讀經。以祈雨也。〔統後紀〕

146. 承和十四年⁴⁵¹正月八日～十四日

乙巳、於大極殿修最勝會。

辛亥、最勝會竟。更引名僧十余人於禁中、令論義。訖施御被。〔統後紀〕

147. 承和十四年⁴⁵¹三月十一日～十六日

丙午、請僧六十四口、沙弥六十四口於清凉殿、転讀大般若經。分僧十七口、沙弥廿一口於常寧殿、修真言法。為鎮物氣也。

辛亥、讀經畢。施度者各一人及御被。〔統後紀〕

148. 承和十四年⁴⁵¹閏三月十五日

わが国宫廷における仏事に關する編年史料

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

請僧八百口於城中、講仁王經。其咒願文曰、(中略)即會百官、先申齋禁、高座開百、僧都及千、一日二時、於王城中、演說此大乘。〔統後紀〕

149 承和十四年(47)七月十五日

太上天皇国忌也。天皇延名僧於清涼殿、講法華經。事竟施御被。〔統後紀〕

150 承和十四年(47)十一月二十一日

屈五十僧於清涼殿、日転金剛般若、夜修十一面法。兼令二十四口僧修息災法於真言院上。並以三ケ日為限焉。〔統後紀〕

151 承和十五年(48)正月八日、十四日

己巳、於大極殿、修最勝會。

乙亥、最勝會訖。更引諸宗名僧十余人於内裏、令論義。畢施御被。〔統後紀〕

152 承和十五年(48)二月十五日、十八日

乙巳、請百僧於紫宸殿及清涼殿、転読大般若經。其由不詳。

戊申、読經事畢。施物如常。更有勅、施百僧度者各一人。亦遣中使於八省院、別試持經持呪拔萃者。於是、負笈杖錫自四方至者数百人。就中及第者七十余人、並聽得度。皆以延字居名上。〔統後紀〕

153 嘉祥元年(47)七月六日

請百僧於八省院、転読大般若經。以祈甘雨。〔統後紀〕

154 嘉祥元年(47)七月十五日

是太上天皇国忌日也。令_レ公卿已下_一設_レ齋於高雄山寺_上。兼請_レ律師実敏、大法師願勤・道昌・光定等於清涼殿_一、令_レ講_レ法華經_一。竟施_レ物有_レ差。〔統後紀〕

155 嘉祥二年₈₄₉正月八日_一十四日

癸亥、於_二大極殿_一、修_二最勝會_一。

己巳、最勝會竟。引_レ諸宗名僧十余人於内裏_一、令_レ論義_一。訖施_二御被_一。〔統後紀〕

156 嘉祥二年₈₄₉五月十五日_一十八日

戊辰、於_二清涼殿_一令_レ講_二四卷金光明經_一。昼則演說、夜則禮懺。

辛未、講經事畢。〔統後紀〕

157 嘉祥三年₈₅₀正月八日

於_二大極殿_一修_二最勝會_一。〔統後紀〕

158 嘉祥三年₈₅₀二月五日_一七日

甲寅、御病殊劇。(中略)請_二僧綱十禪師及有驗者於御簾外_一、令_レ奉_二加持_一。(中略)乙卯、御体疲殆。衆僧入_二於御簾中_一、繞_二御床_一而奉_二加持_一。

丙辰、(中略)是日、大法師真頂与_二北山近士觀善_一、特入_二御簾中_一奉_二加持_一。觀善誓曰、御病不_レ除、不_二更起座_一、不_二復飲食_一。〔統後紀〕

159 嘉祥三年₈₅₀二月十五日_一十八日

甲子、請_二名僧六十口於紫宸殿_一、限_二三ヶ日_一、軋_二誦大般若經_一。又請_二天台宗座主前入唐請益伝燈大法師位円仁及

わが国宮廷における仏事に關する編年史料

わが国宮廷における仏事に關する編年史料

定心院十禪師等於仁壽殿、令修文殊八字法。

丁卯、誦經竟。布施有差。又施度者各一人。〔統後紀〕

160 嘉祥三年₅₅₀二月二十二日

以三論宗少僧都実敏・法相宗大法師明詮・天台宗大法師光定・摠持門大法師円鏡等為座主、於清涼殿、限三ケ日、講法華經。諸宗大德翹楚者三四人預席、発揚大義。各持矛楯。天皇隔御簾而聽之。〔統後紀〕

161 嘉祥三年₅₅₀二月二十七日

於豐樂院、令真言宗修護摩法。〔統後紀〕

162 嘉祥三年₅₅₀三月五日、八日

癸未、(中略)請名僧百口於紫震殿、限三ケ日、転讀大般若經。

丙戌、百僧帰却。布施各有差。又施度者各一人。〔統後紀〕

163 嘉祥三年₅₅₀三月十一日

令大法師道詮等請戒。主上口受永不殺生。〔統後紀〕

164 嘉祥三年₅₅₀三月十九日

於清涼殿、修七仏薬師法。画七仏像懸御簾前、七重輪燈立於庭中。復於紫震殿南庭、新度十人。(中略)是日、天皇落飾入道、誓受清戒。〔統後紀〕

嘉祥三年⁸⁵⁰三月二十一日踐祚

同年⁸⁵⁰四月十七日即位

天安二年⁸⁵⁰八月二十七日崩御

165 嘉祥三年⁸⁵⁰五月九日

莊嚴清涼殿、安置金光明經・地藏經各一部、及新造地藏菩薩像一軀、屈請百僧、修先皇七々日御齋會。解座之後、便於大極殿、限三ケ日、轉讀大般若經。以祈甘雨也。応時雨降。〔文実〕

166 嘉祥三年⁸⁵⁰五月十三日

請僧五十口、分配東宮中宮、限三ケ日、轉讀大般若經。〔文実〕

167 嘉祥三年⁸⁵⁰七月三日

延屈百僧於大極殿、轉讀大般若經。為祈穀也。〔文実〕

168 嘉祥三年⁸⁵⁰十月二十三日

屈七十僧於東宮、轉讀大般若經。別請七僧於清涼殿、修法印呪。並限三日。為國祈也。〔文実〕

169 嘉祥三年⁸⁵⁰十二月十五日

屈僧都、礼仏懺悔。〔文実〕

*場所の明示は無いが、宮中仏名会の記事として掲げる。以下、同様。

170 仁寿元年⁸⁵⁰三月六日・九日

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

戊寅、請_二卅二僧於東宮_一、転_二読大般若経_一。

辛巳、読_二般若_一訖。魄養如常。更有_二恩勅_一、施_二度者各一人_一。〔文実〕

171 仁寿元年₈₅₁八月一日

屈_二僧二百六人於大極殿_一、読_二大般若経_一。為_レ祈_レ穀也。〔文実〕

172 仁寿二年₈₅₂三月十六日

請_二高僧及沙弥練行者各卅二人於東宮_一、転_二大般若経_一。限_二三日_一訖。〔文実〕

173 仁寿二年₈₅₂四月十四日

修_二仁王会_一、起_二自_二宮城_一、及_二于_二諸国_一、設_二百高座_一、一日二時、講_二演経王_一。〔文実〕

174 仁寿二年₈₅₂十月二十七日

請_二五十僧於東宮_一、転_二読大般若経_一。限_二三日_一訖。〔文実〕

175 仁寿三年₈₅₃三月二十二日

請_二名僧百口_一、於_二大極殿_一、転_二読大般若経_一。限_二三日_一訖。攘_二灾疫_一也。〔文実〕

176 仁寿年中₈₅₁~₈₅₄

散位從四位下高向朝臣公輔卒。(中略)少年出家、被_二緇為僧_一。住_二延曆寺_一、学_二真言教_一。尤精_二義旨_一、為_二阿闍梨_一。仁寿中徵侍_二東宮_一。私通_二乳母_一、事漸發露。太政大臣忠仁公聞_レ之、遂令_二還俗_一。〔三実元慶四年十月十九日条〕

177 齊衡元年₈₅₄二月十六日

請僧五十二人於内裏、讀大般若經。限三日訖。〔文実〕

178. 齊衡元年⁵⁵⁴六月二十四日

請僧卅二口於冷然院、讀大般若經。限三日訖。〔文実〕

*以下、冷然院での仏事を採録する。116. 参照。

179. 齊衡元年⁵⁵⁴十二月十八日。

礼仏懺悔。〔文実〕

180. 齊衡二年⁵⁵⁵二月十八日、二十一日

戊辰、請二百僧於大極殿、転読大般若經。

辛未、読般若訖。僧年七十已上、及法師位已上者、賜度者各一人。其年六十已上帶法師位者、兼加一階。

満位者唯授一階。〔文実〕

181. 齊衡二年⁵⁵⁵九月二十三日以前（延曆年中以後）

僧正長訓大法師卒。（中略）延曆年中受具足戒、後於大極殿、説最勝王經。応問而答、能發疑會。〔文

実〕

182. 齊衡二年⁵⁵⁵十二月十八日

礼仏懺悔。〔文実〕

183. 齊衡三年⁵⁵⁶二月十八日

請僧百三人於大極殿及冷然院、分読大般若經。〔文実〕

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

184. 齊衡三年⁸⁵⁰三月

延曆寺座主伝燈大法師位円仁卒。(中略) 齊衡三年三月、天皇屈^三円仁於冷然院、受^三兩部灌頂^一。〔三実貞觀六年正月十四日条〕

185. 齊衡三年⁸⁵⁰五月九日

請僧二百五十人於大極殿及冷然院、賀茂、松尾神社、分^三讀大般若經^一。限三日訖。攘^三灾疫^一也。〔文実〕

186. 天安元年⁸⁵⁷三月七日

是日請衆僧百五十人於冷然院新成殿及大極殿、限以三^三ケ日^一、轉^三讀大般若經^一。〔文実〕

187. 天安元年⁸⁵⁷四月十五日

修^三仁王会^一。近自^三禁中^一、遠及^三諸道^一、一日百座、精進勤行。〔文実〕

188. 天安元年⁸⁵⁷五月八日

請僧百四人於大極殿、限三^三ケ日^一、轉^三讀金剛般若經^一。〔文実〕

189. 天安元年⁸⁵⁷五月十四日

請僧六十三人於冷然院、限五^三ケ日^一、轉^三讀大般若經^一。布施之外、別各施^三度者一人^一。〔文実〕

190. 天安元年⁸⁵⁷六月二十八日

是日、請^三名僧廿八人於冷然院^一、轉^三讀大般若經^一。限以^三四ケ日^一。〔文実〕

191. 天安元年⁸⁵⁷六月二十九日

扱^三誦經僧中最英俊者六七人^一、於^三御前^一令^三論議^一。大法師道詮為^三座主^一。〔文実〕

192. 天安元年⁸⁵⁷七月二十四日

請_二名僧六十人於冷然院_一、令_レ轉_レ讀_レ大般若經_一。限以_二三ヶ日_一。〔文実〕

193. 天安元年⁸⁵⁷八月二十一日

請_二僧六十人於冷然院_一、限_二五ヶ日_一、轉_レ讀_レ大般若經_一。〔文実〕

194. 天安元年⁸⁵⁷九月十五日

請_二名僧八人於書堂_一、限_二七ヶ日_一令_レ修_レ法_一。〔文実〕

*書堂を校書殿と解する説あり(増補六国史、頭注)。

195. 天安元年⁸⁵⁷十月三日

又請_二僧六十人於冷然院_一、限_二三ヶ日_一、轉_レ讀_レ大般若經_一。〔文実〕

196. 天安元年⁸⁵⁷十二月十八日

請_二僧五十人於内裏_一、限_二七ヶ日_一、轉_レ讀_レ大般若經_一。〔文実〕

197. 天安二年⁸⁵⁸二月十五日

修_二仁王会百高座_一。〔文実〕

*場所の明記を欠くが、採録。

198. 天安二年⁸⁵⁸二月十七日

請_二僧五十七人於冷然院南殿_一、限_二三ヶ日_一、轉_レ讀_レ大般若經_一。〔文実〕

199. 天安二年⁸⁵⁸三月六日

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

請僧卅二人於内裏、転讀大般若經。〔文実〕

200. 天安二年⁸⁵⁸三月十五日

是日、召_レ会諸可諸別所能書者、於_レ常寧殿、初令_レ写_レ般若波羅蜜多理趣經百卷。于_レ時源每有_レ時有、於_レ殿上_レ落髮入道。此夜有_レ灌頂之事。二人者皇子之得_レ姓者也。每有母多治氏、時有母清原氏。〔文実〕

201. 天安二年⁸⁵⁸三月三十日

請僧百人、相分七十人在_レ内裏、三十人在_レ八省院、三日間転讀大般若經。〔文実〕

202. 天安二年⁸⁵⁸八月二十六日

是日、薦葉無驗。騒動殊切。請公卿侍殿上行_レ事。屈_レ名僧五十人於冷然院、令_レ讀大般若經。限以_レ五ケ日。〔文実〕

203. 天安二年⁸⁵⁸八月

僧正伝燈大法師位真濟卒。(中略)天安二年八月、文德天皇寢_レ病。真濟侍_レ看病於冷然院。大漸之夕、時論嗷々。真濟失_レ志隱居。〔三実貞觀二年二月二十五日条〕

清和天皇

天安二年⁸⁵⁸八月二十七日踐祚

同年⁸⁵⁸十一月七日即位

貞觀十八年⁸⁷⁰十一月二十九日讓位

元慶四年₈₅₀十二月四日崩御

204. 天安二年₈₅₀十月十七日

便請_三広隆寺五十僧於東宮、限以三日、_転誦_三大般若經。広隆寺卅僧、近陵寺十僧、始_レ自_三御葬明日、至于卅九日、誦_三經念仏。類日所_レ請。即便是也。〔三実〕

205. 天安二年₈₅₀十二月十九日

屈_三名僧十口於内殿、_転誦_三大般若經。限以八日。是日修_三仏名懺悔之事。凡每年十二月十九日延名僧三四人於内殿、始修_三仏名懺悔、限三日_レ訖。他皆效_レ之。〔三実〕

206. 貞觀元年₈₅₉正月八日_レ十四日

乙丑、於_三大極殿_一始講_三最勝王經_一。以_三元興寺僧三論宗伝燈大法師位道昌_一為_三講師_一。不_レ奉_三音楽_一。渴密也。凡每年十月興福寺維摩会、屈_レ諸宗僧_三学業優長果_三五階_一者_レ為_三講師_一。明年正月大極殿御齋会、以_三此僧_一為_三講師_一。三月薬師寺最勝会講師、亦同請_レ之。經_三此三會講師_一者、依_レ次任_三僧綱_一。他皆效_レ此。

207. 貞觀元年₈₅₉二月二十五日

請_三六十四僧_一、於_三東宮_一_転誦_三大般若經_一。今日起首、限三日_レ訖。凡貞觀之代、每季四季_転誦_三大般若經_一。他皆效_レ之。〔三実〕

208. 貞觀元年₈₅₉四月八日

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

わが国宮廷における仏事に關する編年史料

内殿灌仏如常。凡毎年四月八日、天子於内殿灌仏。親王、公卿及殿上六位已上各奉餽錢、多少有差。他皆效之。〔三実〕

209 貞觀元年⁸⁵⁹五月二十二日

屈八十僧、限以三日、於東宮轉讀大般若經。〔三実〕

210 貞觀元年⁸⁵⁹六月二十三日

是日、於東宮雅院始修法。限以十二日。〔三実〕

211 貞觀元年⁸⁵⁹八月七日

屈請六十僧於東宮、轉讀大般若經。限以三日。〔三実〕

212 貞觀元年⁸⁵⁹十二月十八日

延屈六十僧於東宮、限以三日、轉讀大般若經。并修仏名懺悔。〔三実〕

213 貞觀元年⁸⁵⁹

延曆寺座主伝燈大法師位円仁卒。(中略)天安二年八月天皇崩。十二月皇太子履祚。明年天皇屈円仁於内裏、受菩薩戒。〔三実貞觀六年正月十四日条〕

214 貞觀二年⁸⁶⁰正月八日~十四日

己未、於大極殿、始講最勝王經如常。以薬師寺僧花嚴宗伝燈大法師位明哲為講師。

乙丑、大極殿齋講畢。僧綱引名僧、奉參御在所論義。施被如常。〔三実〕

215 貞觀二年⁸⁶⁰二月十四日

請三十僧於東宮、限三箇日、転読大般若經。〔三実〕

216 貞觀二年⁸⁶⁰四月八日

内殿灌仏如常。〔三実〕

217 貞觀二年⁸⁶⁰五月一日

屈請六十僧於東宮御在所、読大般若經。限三日訖。〔三実〕

218 貞觀二年五月十一日

天皇及皇太夫人、以米六百斛、(中略)、施僧尼優婆塞優婆夷及隱居飢窮之輩二万九千六百七十四人。以助修淳和太后齋會也。先是、淳和太后於院裏設齋會。限以五月。講法華經。是日齋講竟矣。〔三実〕

延曆寺座主伝燈大法師位円仁卒。(中略)貞觀二年五月淳和太后請諸寺名徳於院裏、六ヶ日間、講法華經。解坐之後、請留円仁、受菩薩大戒。奉太后法名称良祚。〔三実貞觀六年正月十四日条〕

淳和太皇太后崩。(中略)貞觀二年五月、於淳和院設大齋會。延諸寺名僧、講法華經。〔三実元慶三年三月二十三日条〕

219 貞觀二年⁸⁶⁰五月二十六日

是日、請廿僧於東宮北殿、修息災法。限以三日。〔三実〕

220 貞觀二年⁸⁶⁰七月二十五日

請六十僧於東宮、転読大般若經。限三日訖。〔三実〕

221 貞觀二年⁸⁶⁰十月二十一日

わが国宫廷における仏事に関する編年史料

わが国宮廷における仏事に關する編年史料

- 屈三十僧於東宮、限三箇日。転読大般若經。〔三実〕
- 222 貞觀二年⁶⁶⁰十月二十八日〜閏十月二日
甲辰、皇太后於東五条宮、大修齋會、講法華經。限五日訖。
- 戊申、分遣使者、賜京師貧窮者錢米。以今日皇太后宮齋講畢故也。〔三実〕
- 223 貞觀二年⁶⁶⁰十二月二十一日
始修仏名懺悔之事如常。〔三実〕
- 224 貞觀三年⁶⁶¹正月八日〜十四日
癸未、於大極殿、始講最勝王經。以興福寺僧伝燈大法師位春徳為講師。
- 乙丑、大極殿齋會畢。僧綱以下奉參内殿、論義如常。〔三実〕
- 225 貞觀三年⁶⁶¹二月七日〜十日
辛亥、(中略)先是、今上奉為先帝、写得金字大般若經一部。是日、於内殿屈請百僧、奉読彼經。限三日訖。
- 甲寅、読經事畢。百僧罷還。各施度者一人。所司有布施之外、以内藏寮絹綿布加曬焉。〔三実〕
- 226 貞觀三年⁶⁶¹四月八日
内殿灌仏如常。〔三実〕
- 227 貞觀三年五月十六日〜二十一日
己丑、請諸大寺僧六十口於御在所、転読大般若經、限三箇日訖。祈甘雨也。

壬辰、地震。微雨即止。讀經更延二箇日。為未得嘉澍也。

甲午、読経畢。衆僧退散。諸司行布施之外、加施御被。〔三実〕

228 貞觀三年六月

延曆寺座主伝燈大法師位円仁卒。(中略)(貞觀)三年六月、太皇太后藤原氏、請僧綱名僧於五条宮、四ケ日間、講法華經。太后受菩薩大戒・三昧耶戒、及壇灌頂、行大乘布薩。〔三実〕

229 貞觀三年八月十二日

屈六十僧於内殿、転読大般若經。限以三箇日。〔三実〕

230 貞觀三年十月二十五日

請六十僧於内殿、限三箇日、転読大般若經。〔三実〕

231 貞觀四年正月八日

大極殿始齋講如常。以法隆寺僧三論宗伝燈大法師位長賢為講師。〔三実〕

232 貞觀四年二月二十日

請六十僧於内殿、三ケ日間、転読大般若經。〔三実〕

233 貞觀四年四月五日

請一百僧於大極殿、転読大般若經。限三日訖。〔三実〕

234 貞觀四年四月八日

内殿灌仏如常。〔三実〕

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

- 235 貞觀四年₍₆₆₂₎八月五日
延_三六十僧於内殿、限_三箇日、転読大般若経。〔三実〕
- 236 貞觀四年₍₆₆₂₎十月二十二日
延_三屈六十僧於内殿、限_三三日、転読大般若経。卅僧修法限_二七日_一。〔三実〕
- 237 貞觀四年₍₆₆₂₎十二月廿日
於_二内殿_一修_二仏名懺悔_一如_レ常。〔三実〕
- 238 貞觀五年₍₆₆₃₎正月八日、十四日
辛未、始講_二最勝王経_一於大極殿。以_三興福寺僧伝燈満位僧興照_一為_二講師_一。
- 丁丑、大極殿御齋会竟。僧綱以下、奉_レ参_二内殿_一、論義如_レ常。〔三実〕
- 239 貞觀五年₍₆₆₃₎正月二十一日
於_二雅院_一修法。限_三以_二七日_一。〔三実〕
- 240 貞觀五年₍₆₆₃₎二月七日
於_二内殿_一修法。限_三以_二七ケ日_一。〔三実〕
- 241 貞觀五年₍₆₆₃₎三月二十三日
延_三百廿僧於内殿、中宮、神泉苑三処、相分_二転読大般若経_一。限_三三日_一訖。〔三実〕
- 242 貞觀五年₍₆₆₃₎四月八日
内殿灌_レ仏如_レ常。〔三実〕

243. 貞觀五年⁶⁶³五月十三日

請六十僧於內殿、限以三日、轉誦大般若經。〔三実〕

244. 貞觀五年⁶⁶³七月二十日

請六十僧於內殿、限以三日、轉誦大般若經。〔三実〕

245. 貞觀五年⁶⁶³十月二十三日

屈六十僧於內殿、限三ヶ日、轉誦大般若經。〔三実〕

246. 貞觀六年⁶⁶⁴正月八日、十四日

乙未、始講最勝王經於大極殿。以三元與寺僧傳燈大法師位賢心、為講師。

辛丑、大極殿齋講畢。僧綱已下、奉參御在所論義。賜御被如常。〔三実〕

247. 貞觀六年⁶⁶⁴三月二十二日

延六十僧於內殿、限以三日、轉誦大般若經。〔三実〕

248. 貞觀六年⁶⁶⁴四月八日

灌_三仏於內殿、如_三常儀。〔三実〕

249. 貞觀六年⁶⁶⁴五月十九日

請六十僧於內殿、限三ヶ日、轉誦大般若經。〔三実〕

250. 貞觀六年⁶⁶⁴八月二十三日

延六十僧於紫宸殿、限以三日、轉誦大般若經。〔三実〕

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

251. 貞觀六年⁸⁶⁴十月三日
請^三六十僧於^二内殿^一、^三轉^二誦^一大般若經^一。限^三三日^一訖。〔三実〕
252. 貞觀六年⁸⁶⁴十二月二十三日
内殿始修^三仏名懺悔^一如^レ常。〔三実〕
253. 貞觀七年⁸⁶⁵正月八日^レ十四日
庚寅、於^三大極殿^一始^レ講^三最勝王經^一。以^三東大寺僧花嚴宗伝燈大法師位興智^一為^三講師^一。
丙申、(中略)大極殿齋講畢。僧綱以下奉^レ参^三内殿^一、論義如^レ常。〔三実〕
254. 貞觀七年⁸⁶⁵二月十四日
請^三六十僧於^二東宮内殿^一、限以^三五日^一、^三轉^二誦^一大般若經^一。〔三実〕
255. 貞觀七年⁸⁶⁵四月五日
是日、内裏并諸司諸所延^三名僧一人^一、受^三三十善戒^一、^三誦^二般若心經^一。僧俗所^レ誦卷數、名別録奉^レ進。去年天下患^三咳逆病^一。今年内外疫氣有^レ萌。故^レ轉^レ經攘^レ之。〔三実〕
256. 貞觀七年⁸⁶⁵四月八日
灌^三仏内殿^一如^レ常儀^一。〔三実〕
257. 貞觀七年⁸⁶⁵四月二十七日
請^三六十僧於^二内殿^一、三箇日間、^三轉^二誦^一大般若經^一。〔三実〕
258. 貞觀七年⁸⁶⁵七月十二日

延_二僧六人_一、於_二建禮門_一、転_レ読_二金剛般若經_一。〔三実〕

259. 貞觀七年₆₆₉八月十七日

屈_二六十僧於太政官曹司_一、限以_二三日_一、転_レ読_二大般若經_一。天皇欲_二遷御_一故、秋季御_レ読_二經於_レ此_レ修_レ之。兼以鎮也。〔三実〕

260. 貞觀七年₆₆₉十月十九日

延_二六十僧於太政官_一、転_レ読_二大般若經_一。限_二三日_一訖。〔三実〕

261. 貞觀七年₆₆₉十月二十七日、二十九日

乙亥、延_二三百僧於本宮内裏_一、限以_二三日_一、転_レ読_二大般若經_一。天皇欲_二遷御_一。故予鎮之。

丁丑晦、勅賜_二読_二經_一百僧度有各一人_一。〔三実〕

262. 貞觀七年₆₆₉十一月二十七日

延_二僧七口於内殿裏_一修法。〔三実〕

263. 貞觀七年₆₆₉十二月十九日

於_二内裏_一始修_二仏名懺悔_一。〔三実〕

264. 貞觀八年₆₇₀正月八日、十四日

乙酉、於_二大極殿_一、始講_二最勝王經_一。西大寺僧_レ伝燈大法師位平恩為_二講師_一。

辛卯、大極殿齋講畢。僧綱已下奉_レ参_二内裏_一、論義如常。施_二御被_一。〔三実〕

265. 貞觀八年₆₇₀三月五日

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

延_三六十僧於紫震殿、限以_三三日、転_三読大般若経。於_三近京廿六ヶ寺及大和国香山・長谷・壺坂等寺、三ヶ日
間、転_三読金剛般若経。〔三実〕

266 貞観八年₈₆₆閏三月二十七日

遣_三廿一僧於山城国河陽離宮、限以_三六日、転_三読大般若経二部。〔三実〕

267 貞観八年₈₆₆四月八日

灌_三仏於仁寿殿一如_三常儀。〔三実〕

268 貞観八年₈₆₆四月二十五日

延_三屈七僧於太政官候庁、限以_三三日、転_三読金剛般若経。先是、今月十四日、庁南廊顛仆。仍修善攘災。〔三
実〕

269 貞観八年五月八日

霖雨。請_三六十僧於紫震殿、限以_三三日、転_三読大般若経。〔三実〕

270 貞観八年₈₆₆六月十八日

請_三六十八僧於大極殿、限以_三三日、転_三読大般若経。以祈_三雨也。〔三実〕

271 貞観八年₈₆₆八月八日

屈_三六十僧於紫震殿、限以_三三日、転_三読大般若経。〔三実〕

272 貞観八年₈₆₆十月二十日

延_三六十僧於紫震殿、限以_三三日、転_三読大般若経。〔三実〕

273. 貞觀八年₆₆₀十二月二十日

是日、於三内殿、始修三仏名懺悔例也。〔三実〕

274. 貞觀九年₆₆₁正月八日〜十四日

己酉、始講三最勝王經於大極殿。以三葉師寺僧伝燈大法師位平智、為三講師。

乙卯、大極殿齋講竟。僧綱率三諸宗僧、奉三参内裏、論義如常。〔三実〕

275. 貞觀九年₆₆₁二月十七日

延三六十口僧於紫震殿、限以三三日、転読大般若經。〔三実〕

276. 貞觀九年₆₆₁四月八日

灌三仏於仁寿殿。〔三実〕

277. 貞觀九年₆₆₁五月十日

請三六十僧於紫震殿、限以三三日、転読大般若經。令三諸司官人已下雜色已上、読般若心經。其卷数十三日

進三太政官。〔三実〕

278. 貞觀九年₆₆₁八月六日

延三六十僧於紫宸殿、限以三三日、転読大般若經。〔三実〕

279. 貞觀九年₆₆₁十月二十日

屈三六十僧於紫宸殿、限以三三日、転読大般若經。〔三実〕

280. 貞觀十年₆₆₂正月八日〜十四日

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

わが国宫廷における仏事に関する編年史料

癸酉、(中略) 始講_レ最勝王経於大極殿_一。以_レ延曆寺僧天台宗伝燈大法師位法勢_一為_レ講師。

己酉、大極殿齋講畢。僧綱已下名僧奉_レ参_レ内裏_一、論義如常。各賜_レ被_一。〔三実〕

281. 貞観十年₆₆₈二月十四日

延_三六十僧於紫震殿_一、限以_三三日_一、転_レ読_レ大般若経_一。〔三実〕

282. 貞観十年₆₆₈四月八日

灌_三仏於仁寿殿_一。〔三実〕

283. 貞観十年₆₆₈五月八日

延_三六十僧於紫震殿_一、読_レ大般若経_一。限_三三日_一訖。〔三実〕

284. 貞観十年₆₆₈八月十六日

延_三六十僧於紫震殿_一、限以_三三日_一、読_レ大般若経_一。〔三実〕

285. 貞観十年₆₆₈十二月二十二日

太皇太后請_三六十僧於東京宮_一、薰修講_レ経。会_三京師貧窮者於朱雀大路_一、賜_レ物各有_三差_一。后春秋始滿_三六十_一。賀

以_三修善_一。〔三実〕

286. 貞観十年₆₆₈閏十二月十四日

延_三六十僧於紫震殿_一、限_三三ヶ日_一、転_レ読_レ大般若経_一。〔三実〕

287. 貞観十年₆₆₈閏十二月十九日

於_三内殿_一始修_三仏名懺悔_一、限_三三日_一訖。〔三実〕

288 貞觀十一年⁶⁶⁹正月八日〜十四日

丙寅、始講^ニ最勝王經於大極殿^ニ。以^ニ葉師寺僧華嚴宗伝燈大法師位長朗^ニ為^ニ講師^一。

壬申、大極殿齋講竟。後僧綱率^ニ名僧^一、奉^レ參^ニ内裏^一、論義如^レ常。〔三実〕

289 貞觀十一年⁶⁶⁹二月九日

延^ニ五十僧於東宮^一、轉^ニ讀^ニ大般若經^一。依^ニ皇太子欲^レ入故鎮^一之。〔三実〕

290 貞觀十一年⁶⁶⁹二月二十六日

延^ニ六十僧於大極殿^一、限^ニ以^ニ三日^一、轉^ニ讀^ニ大般若經^一。〔三実〕

291 貞觀十一年⁶⁶⁹四月八日

灌^ニ仏^一。〔三実〕

*場所の明記を欠くが、恒例の宮中のそれとみて、採用した。

292 貞觀十一年⁶⁶⁹七月十八日

延^ニ六十僧於紫震殿^一、轉^ニ讀^ニ大般若經^一。限^ニ以^ニ三ケ日^一。〔三実〕

293 貞觀十一年⁶⁶⁹十月二十三日

延^ニ六十僧於紫震殿^一、轉^ニ讀^ニ大般若經^一。限^ニ以^ニ三日^一訖。〔三実〕

294 貞觀十一年⁶⁶⁹十二月十九日

始修^ニ仏名懺悔之事^一。〔三実〕

295 貞觀十二年⁶⁷⁰正月八日〜十四日

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

- 辛酉、始講最勝王經於大極殿。以三元興寺僧三論宗伝燈大法師位円宗為講師。丁卯、大極殿齋講竟。僧綱已下奉參内裏、論義如常。施賜御被。〔三実〕
296. 貞觀十二年二月二十二日
迎三十僧於紫震殿、限以三日、轉誦大般若經。〔三実〕
297. 貞觀十二年四月八日
灌仏。其儀如常。〔三実〕
298. 貞觀十二年五月二十四日
延三十僧於紫震殿、限以三日、轉誦大般若經。〔三実〕
299. 貞觀十二年八月十九日
延三十僧於大極殿、限以三日、轉誦大般若經。〔三実〕
300. 貞觀十二年十月十九日
請三十僧於紫震殿、限以三日、轉誦大般若經。〔三実〕
301. 貞觀十二年十二月十九日
始修仏名懺悔一如常。〔三実〕
302. 貞觀十三年正月八日、十四日
乙卯、於大極殿、齋講最勝王經。以興福寺僧法相宗伝燈大法師位豊榮為講師。辛酉、大極殿齋講畢。僧綱引名僧、奉參内裏論義。施被如常。〔三実〕

303. 貞觀十三年(713)三月八日

延三十僧於紫宸殿、限以三日、轉讀大般若經。(三実)

304. 貞觀十三年(713)四月八日

灌_二仏_一於内殿、如_レ常。(三実)

305. 貞觀十三年(713)五月十四日

迎三十僧於紫宸殿、限以三日、轉讀大般若經。(三実)

306. 貞觀十三年(713)六月十五日、十七日

庚寅、延三十僧於大極殿、限以三日、轉讀大般若經。苦請_二澍雨_一。

壬辰、更延_二講經_一三日。緣_レ不_二快雨_一也。(三実)

307. 貞觀十三年(713)八月二十五日

延三十僧於紫宸殿、限以三日、轉讀大般若經。(三実)

308. 貞觀十三年(713)十月二十四日

延三十僧於紫宸殿、限以三日、轉讀大般若經。(三実)

309. 貞觀十三年(713)十二月十九日

始修_二仏名_一懺悔、如_レ常。(三実)

310. 貞觀十四年(714)正月八日、十四日

己卯、(中略)是日、於_二大極殿_一始講_二最勝王經_一。以_二元興寺僧法相宗伝燈大法師位長源_一為_二講師_一。但不_レ拏_二音

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

樂一。

乙酉、大極殿齋講畢。僧綱引名僧、奉參内裏、論義如常。施被而罷。〔三実〕
311. 貞觀十四年872二月十四日

延六十僧於紫宸殿、限以三日、転讀大般若經。〔三実〕

312. 貞觀十四年872五月六日

延六十僧於紫宸殿、限以三日、転讀大般若經。〔三実〕

313. 貞觀十四年872七月十八日

延六十僧於大極殿、限以三日、転讀大般若經。祈雨也。〔三実〕

314. 貞觀十四年872九月二十一日

延六十僧於紫宸殿、限以三日、転讀大般若經。〔三実〕

315. 貞觀十四年872十二月十九日

延六十僧於大極殿、限以三日、転讀大般若經。於内殿修仏名懺悔。限三日訖。〔三実〕

316. 貞觀十五年873正月八日

於大極殿、始講最勝王經。以東大寺僧華嚴宗伝燈大師位玄永為講師。〔三実〕

317. 貞觀十五年873二月二十四日

延六十僧於紫宸殿、限以三日、転讀大般若經。〔三実〕

318. 貞觀十五年873五月十七日〜二十日

庚辰、延三十僧於紫震殿、限以三日、転読大般若經。

癸未、転読經卷、更延二日。奉幣於賀茂・松尾・乙訓・稻荷・貴布祢・丹生川上雨師神、並祈嘉澍也。〔三実〕

319. 貞觀十五年873七月九日

延三十僧於紫震殿、限以三日、転読大般若經。〔三実〕

320. 貞觀十五年873十月二十四日

延三十僧於紫震殿、限以三日、転読大般若經。〔三実〕

321. 貞觀十五年873十二月十九日

始修弘名懺悔之事如常。〔三実〕

322. 貞觀十六年874正月八日十四日

己巳、於三大極殿、始修最勝會。以藥師寺僧法相宗依燈大法師位藥仁為講師。

乙亥、大極殿最勝會竟。僧綱引諸宗名僧十余人、奉參内裏論弘理。訖施御被。〔三実〕

323. 貞觀十六年874二月十七日

延三十僧於紫震殿、限以三日、転読大般若經。〔三実〕

324. 貞觀十六年874四月八日

是日、内殿依例應灌仏。而祠平野神、仍從停廢焉。〔三実〕

325. 貞觀十六年874四月二十五日

延三十僧於紫震殿、限以三日、転読大般若經。是日、頒金字仁王經七十一部云々。〔三実〕

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

わが国宫廷における仏事に関する編年史料

326 貞観十六年874八月二十三日〜二十五日

己卯、延三六十僧於紫震殿、限以三三日、転読大般若経。〔三実〕

先是、八月廿三日、葉師寺僧葉仁在紫震殿転読六十僧之内。廿五日奄忽命終。弟子等秘而不言。或人聞有此事、諮啓。明日將レ発奉幣伊勢太神宮使、以三此穢故。仍停廢焉。大レ成於建礼門前。〔三実貞観十六年九月十日条〕

327 貞観十六年874十月二十三日

延三六十僧於紫震殿、転読大般若経、限以三三日。〔三実〕

328 貞観十六年874十二月十九日

癸酉、(中略)内殿修三仏名懺悔。〔三実〕

少僧都法眼和尚位道昌卒。(中略)(貞観)十六年依例奉御所三仏名懺悔導師。言詞弁恵、善誘加常。聴者感悟、莫不賞歎。帝深歡喜、即降手勅、為少僧都。始自天長、爰及今茲、供奉内裏三仏名導師、未嘗有一年欠焉。况復朝廷每月法事大会、必以道昌為レ発演之首。又受檀越屈。〔三実貞観十七年二月九日条〕

329 貞観十六年874冬

僧正法印大和尚位宗叡卒。(中略)(貞観)十六年冬転権少僧都。奉授天皇金剛界大毗盧遮那三摩地法、親自レ在菩薩秘密真言法。又奉為国家、造胎藏金剛两部大曼荼羅、安置宮中修法院持念堂。〔三実元慶八年三月二十六日条〕

*密宗血脉抄卷一、高野春秋卷二参照。

330 貞觀十七年(743)正月八日、十四日

壬辰、(中略)於大極殿、始講最勝王經。以元興寺僧三論宗伝燈大法師位隆海為講師。

戊戌、大極殿御齋會畢。僧綱引名僧、奉參内裏、論義如常。(三実)

331 貞觀十七年(743)二月二十四日

屈六十僧於大極殿、轉讀大般若經、限以三日。十五僧於紫宸殿、轉讀孔雀經。六僧於豐樂院、轉讀灌頂經。(三実)

332 貞觀十七年(743)五月二十日、二十三日

辛丑、屈六十僧於紫宸殿、限以三日、轉讀大般若經。

甲辰、讀經畢。僧六十口賜度各一人。(三実)

333 貞觀十七年(743)六月十五日、十八日

丙寅、(中略)屈六十僧於大極殿、限三日、轉讀大般若經。十五僧於神泉苑、修大雲輪請雨經法。並祈雨也。

己巳、大極殿讀經、神泉苑修法、更延二日。未得快澍也。(三実)

334 貞觀十七年(743)十月二十四日

屈六十僧於紫宸殿、限以三日。轉讀大般若經。(三実)

335 貞觀十七年(743)十二月十九日

始修仏名懺悔如常。(三実)

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

わが国宫廷における仏事に關する編年史料

336. 貞觀十八年870正月八日、十四日

丙戌、於大極殿、始講最勝王經。以大安寺僧法相宗、燈大法師位、春興為講師。
壬辰、大極殿齋講畢。僧綱率名僧、奉參內裏、論義如常。賜御被而罷。〔三実〕

337. 貞觀十八年870二月二十三日

嘸三十僧於紫宸殿、限以三日、轉讀大般若經。〔三実〕

338. 貞觀十八年870五月二十三日

屈六十僧於紫宸殿、限以三日、轉讀大般若經。設僧房於承明門東西廊。以八省院廊為灰燼也。〔三実〕

339. 貞觀十八年870七月十九日

請五僧於八省院含章堂、轉經。以將始大極殿作事也。〔三実〕

340. 貞觀十八年870八月二十三日

嘸三十僧於紫宸殿、限以三日、轉讀大般若經。〔三実〕

341. 貞觀十八年870十一月二十五日

太政官符、金字大般若經一部、安置圖書寮。故太政大臣忠仁公、天安元年奉為三界諸十方衆類、一切靈鬼、至心發願、書寫是經。(中略) 玉宸曾無霧露之侵、綿区永斷風塵之警。中宮殿下、同保吉祥。右大臣奉勅、宜以此大乘經、安置圖書寮、彰大相之遠慮、歷千秋而長伝。凡厥莊嚴色目、具在別紙。〔三実〕

陽成天皇

貞觀十八年(870)十一月二十九日踐祚

同十九年(871)正月三日即位

元慶八年(884)二月四日讓位

天曆三年(889)九月二十九日崩御

342 貞觀十八年(870)十二月二十日

停_二仏名懺悔之事_一。受禪之後、將_二先行_二神事_一也。〔三実〕

343 元慶元年(877)正月八日(十四日)

庚辰、於_二豐樂殿_一、始講_二最勝王經_一。以_二元興寺僧法相宗伝燈大法師位安春_一為_二講師_一。

丙戌、豐樂殿齋講畢。僧綱率_二名僧_一、奉_レ參_二御在所_一、論義如_レ常。〔三実〕

344 元慶元年(877)二月二十六日

於_二仁壽殿_一修法。限_二三日_一訖。〔三実〕

345 元慶元年(877)三月二十四日(二十八日)

乙丑、太上天皇於_二清和院_一、設_二大齋會_一。講_二法華經_一、限_二五日_一訖。

己巳、清和院齋講事畢。以_二米一百五十斛、穀一千斛_一、賑_二給東西京僧尼男女不_レ能_二自存_一者。〔三実〕

346 元慶元年(877)二月二十六日

わが国宫廷における仏事に関する編年史料

347. 元慶元年⁸⁷⁷七月七日〜十二日
屈^三百廿僧於紫宸殿^一、限以^三三日^一、轉^三讀大般若經^一。今上踐祚之後二季修^レ之。變^三於貞觀四季之例^一也。〔三実〕

丙午、請^三一百僧於紫宸殿^一、限以^三三日^一、轉^三讀大般若經^一。即是秋季^三讀經^一、兼祈^三甘雨^一也。

戊申、雷動晦合、微雨灑落。是日^三讀經^一將^レ竟、旱氣猶盛。更延^三二日^一、轉^三仁王經^一。

辛亥、轉^三經^一五日、請^レ雨不^レ驗。僧中或有^レ慙愧不^レ受^三覲物^一而潛遁者^上。〔三実〕

348. 元慶元年⁸⁷⁷八月十一日

延^三屈名僧於清凉殿^一始^三修法^一。限^三七日^一訖。以^三天皇聖体乖予未^レ就^三平善^一也。〔三実〕

349. 元慶元年⁸⁷⁷九月五日

於^三内裏^一、限以^三五日^一、結界修法。〔三実〕

350. 元慶元年⁸⁷⁷十二月二十一日

於^三内裏^一始^三修^三仏名懺悔之事^一。〔三実〕

351. 元慶二年⁸⁷⁸正月八日〜十四日

甲辰、於^三豐樂院^一、始^三講^三最勝王經^一。以^三興福寺僧法相宗伝燈大法師位孝忠^一為^三講師^一。大極殿未^レ造。故於^レ此修^レ之。庚戌、豐樂院齋講事畢。僧綱引^三名僧^一、奉^レ参^三内裏^一、論^三仏義^一如^レ常。賜^レ被而罷。〔三実〕

352. 元慶二年⁸⁷⁸二月二十四日

屈^三六十僧^一、分^三五十口^一、於^三紫宸殿^一轉^三讀大般若經^一。十僧於^三八省院^一、轉^三讀金剛般若經^一。限^三三日^一訖。〔三実〕

353. 元慶二年⁸⁷⁸四月八日

梅宮祭。仍停灌仏之儀。〔三実〕

354. 元慶二年878四月二十九日

設二百講座一、説仁王般若經。京師始自御在所、至于聖神寺、卅二。畿内及外国六十八。其咒願文曰、(以下略) 〔三実〕

355. 元慶二年878九月二十五日

太上天皇延三屈頌学高僧五十人於清和院、大設齋會、講法華經。限三日訖。太皇太后今年始滿五十之筭。由是慶賀修善、祈禱余齡。親王公卿、文武百官畢會。 〔三実〕

356. 元慶二年878十月二十日

囑七十僧於紫宸殿、限以三日、転讀大般若經。 〔三実〕

357. 元慶二年878十一月十一日

太上天皇獻二物於太皇太后宮一。雅樂拳楽。令太上天皇童親王舞。右大臣藤原朝臣男兒一人預焉。先是、延五十僧、講經薰修。是則解齋之宴也。親王公卿及五位已上畢會。歛飲竟日。賜祿有差。 〔三実〕

358. 元慶二年878十二月二十一日

延三名僧於弘徽殿、始修仏名懺悔。限以三日。 〔三実〕

359. 元慶三年879正月八日十四日

戊戌、大極殿齋講如常。以薬師寺僧法相宗伝燈大法師位義叡為二講師一。甲辰、大極殿齋講事畢。僧綱引三名僧、奉参内裏論義。施被如常。 〔三実〕

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

360. 元慶三年⁸⁷⁹三月十九日

延_三七十四僧於紫震殿、_三転_三読_三大般若經_一。限_三三日_一訖。〔三実〕

361. 元慶三年⁸⁷⁹三月二十四日〜二十八日

甲寅、太上天皇於清和院、設_三大齋會_一、講_三法華經_一。限_三五日_一訖。親王公卿畢會。

戊午、清和院齋講事畢。以_三米一百五十斛、穀一千斛、賑_三給東西京僧尼男女不能_一自存_一者_一。〔三実〕

362. 元慶三年⁸⁷⁹四月八日

於_三仁壽殿_一灌_三仏如_一常。〔三実〕

363. 元慶三年⁸⁷⁹四月十八日

屈_三延曆寺座主伝灯大法師位円珍_一、内供奉十禅師伝燈大法師位承雲等廿二僧、於_三清凉殿_一修_三法_一。限_三三日_一訖。〔三実〕

364. 元慶三年⁸⁷⁹十二月二十一日

於_三清凉殿_一、修_三仏名懺悔_一、限_三以三日_一。例也。〔三実〕

365. 元慶四年⁸⁸⁰正月八日〜十四日

壬戌、大極殿齋講。以_三東大寺僧花嚴宗伝燈大法師位基秀_一為_三講師_一。朝講之後、基秀頓病、不_レ待_三事畢_一、辭讓而去。以_三律師法橋上人位平智_一代之。

戊辰、大極殿齋講畢。僧綱奉_レ参_三内裏_一、論_三義如_一常。〔三実〕

366. 元慶四年⁸⁸⁰三月十七日

延三十八僧於紫震殿、限以三日、転読大般若経。〔三実〕

367. 元慶四年⁽⁸⁸⁰⁾四月八日

大神祭。仍停灌仏之儀。以相当神事也。〔三実〕

368. 元慶四年⁽⁸⁸⁰⁾六月二十六日

延三十五僧於紫震殿、限以三日、転読大般若経。請雨也。〔三実〕

369. 元慶四年⁽⁸⁸⁰⁾八月二十五日

屈七十僧於紫震殿、限以三日、転読大般若経。〔三実〕

370. 元慶四年⁽⁸⁸⁰⁾十二月二十一日

是日、於常寧殿、始修仏名懺悔。限三日訖。〔三実〕

371. 元慶五年⁽⁸⁸¹⁾正月八日、十四日

丁巳、大極殿齋講。以藥師寺僧法相宗伝燈大法師位隆光為講師。不奉音楽。諒闇也。

癸亥、(中略)大極殿齋講畢。停引三名僧論義之儀。〔三実〕

372. 元慶五年⁽⁸⁸¹⁾三月二十二日

延九十僧、限以三日、於紫震殿読大般若経。〔三実〕

373. 元慶五年⁽⁸⁸¹⁾四月八日

於清涼殿灌仏。其儀如常。〔三実〕

374. 元慶五年⁽⁸⁸¹⁾八月二十六日

わが国官廷における仏事に關する編年史料

わが国宮廷における仏事に關する編年史料

- 375 元慶五年₈₈₁十二月十九日
延_三六十八僧於紫震殿、讀_三大般若經_一。限_三三日_一訖。〔三実〕
- 於_三清凉殿_一、修_三仏名懺悔_一。限_三以三日_一。〔三実〕
- 376 元慶六年₈₈₂正月八日_一十四日
辛亥、大極殿齋講最勝王經_一如常。以_三大安寺三論宗伝燈大法師位安海_一為_三講師_一。
丁巳、大極殿齋講畢。僧綱引_三名僧_一、奉_三參内裏_一、論義如常。賜_三御被_一。〔三実〕
- 377 元慶六年₈₈₂三月二十二日
延_三八十二僧_一、限_三以三日_一、於_三紫震殿_一、転_三讀大般若經_一。〔三実〕
- 378 元慶六年₈₈₂四月八日
於_三清凉殿_一灌_三仏如常_一。〔三実〕
- 379 元慶六年₈₈₂八月二十二日_一二十五日
辛酉、延_三八十僧於紫震殿_一、転_三讀大般若經_一。限_三三日_一訖。
- 甲子、読_三經事畢_一。引_三名僧廿人於御所_一論義。賜_三被_一。〔三実〕
- 380 元慶六年₈₈₂十二月二十日
於_三綾綺殿_一、限_三以三日_一、修_三仏名懺悔_一。〔三実〕
- 381 元慶七年₈₈₃正月八日_一十四日
乙亥、於_三大極殿_一、始講_三最勝王經_一如常。以_三興福寺僧法相宗伝燈大法師位房忠_一為_三講師_一。

辛巳、大極殿齋講畢。僧綱奉參內裏論義。賜被如常。〔三実〕

382. 元慶七年⁸³³三月二十一日〜二十四日

丁亥、屈八十僧於紫震殿、転読大般若経。限三日訖。

庚寅、読経事畢。別延有智僧廿九人於御前論義。〔三実〕

383. 元慶七年⁸³³十月四日〜七日

丁酉、延八十僧於紫震殿、転読大般若経。限以三日。

庚子、読経事畢。延有智僧廿九人、於仁寿殿論義。〔三実〕

384. 元慶七年⁸³³十二月二十二日

於内殿修私名懺悔。限以三日。〔三実〕

385. 元慶八年⁸³⁴正月八日〜十四日

庚午、於大極殿、始講最勝王経、如常。以元興寺僧法相宗伝燈大法師位峯基為講師。

丙子、大極殿齋会事畢。僧綱引名僧、奉參内裏、論義如常。施被而罷。〔三実〕

光孝天皇

元慶八年⁸³⁴二月四日踐祚、二月二十三日即位

仁和三年⁸⁴⁹八月二十六日崩御

わが国宫廷における仏事に関する編年史料

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

386 元慶八年₈₈₄二月六日

是日、僧都已下率_レ威儀從僧等_一、奉_レ參_三東宮_一、慶_レ賀_三天皇_一也。以_三内藏寮綿絹_一賜_レ之。〔三実〕

387 元慶八年₈₈₄二月十三日

請_三僧五十口於東宮前殿_一、転_レ説_三大般若經_一。限以_三三日_一。〔三実〕

388 元慶八年₈₈₄二月二十四日

延_三廿僧於仁寿殿_一修法。限_三五日_一訖。〔三実〕

389 元慶八年₈₈₄三月三日

威儀師一人率_三西大寺僧廿五人_一、奉_レ為_三天皇_一、転_レ念_三金剛般若五十卷_一、延命真言一万遍。録_三其事由_一、詣_レ闕進_レ献_レ、奉_レ賀_三踐祚_一也。襖子一領賜_三威儀師_一。〔三実〕

390 元慶八年₈₈₄四月八日

於_三御在所_一灌_三仏如_一旧儀。太政大臣已下奉_三囑錢_一各有_レ差。〔三実〕

391 元慶八年₈₈₄十二月十九日

於_三仁寿殿_一、始修_三仏名懺悔_一、限以_三三日_一。〔三実〕

392 仁和元年₈₈₅正月八日_一十四日

甲子、於_三大極殿_一、始講_三最勝王經_一。以_三元興寺三論宗伝燈大法師位_一延_レ保_レ為_三講師_一。

庚午、大極殿齋講事畢。僧綱引_三名僧_一、奉_レ參_三内裏_一、論_レ義如_レ常。賜_レ被_レ而罷。〔三実〕

393 仁和元年₈₈₅三月二十日

請僧百口於紫宸殿、誦大般若經。限三日訖。〔三実〕

394. 仁和元年₈₈₉閏三月六日

勅、毎年正月、大極殿齋講、是先聖之所始修也。德厚利_レ民、設_二大会之法座_一、慮深護_レ國、演_二最勝之經_一。才名拔_レ萃、智德出_レ群、屈為_二講師_一、其來尚矣。宜賜_二度者一人_一以代_二彼扶_レ老之杖_一。立為_二恒例_一。〔三実〕

395. 仁和元年₈₈₉四月八日

於_二仁壽殿_一、灌_二仏如_レ常_一。〔三実〕

396. 仁和元年₈₈₉四月二十六日

是日、修_二仁王會_一。始_レ自_二紫宸殿_一、詣_二殿諸司_一、十二門、羅城門、東西寺合卅二所、及五畿内七道諸國、同日同時、朝夕二時講_二修_レ之_一。其咒願文曰、(以下略)。

*この仁王會の關係記事が、これより先、同年三月十五日、閏三月一日の各条に見える。

397. 仁和元年₈₈₉十月十九日、二十一日

庚午、引_二僧廿口於_二仁壽殿_一、_レ転_二誦_二金剛般若經_一、限_二以_二三日_一。

癸酉、仁壽殿_レ転_二經_一事畢。詔、(以下略)。〔三実〕

398. 仁和元年₈₈₉十二月十八日

延_二僧正法印大和尚位_一遍照、於_二仁壽殿_一申_二曲宴_一。遍照今年始滿_二七十一_一。天皇慶_レ賀、徹_レ夜談賞。太政大臣左右大臣預_レ席焉。〔三実〕

399. 仁和元年₈₈₉十二月十九日

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

於仁壽殿、始修弘名懺悔之事。限三日訖。〔三実〕

400 仁和二年889正月八日〜十四日

戊子、於大極殿、始講最勝王経。以興福寺僧法相宗伝燈大法師位榮仁、為講師。天皇臨御大極殿、聽講経。

甲午、大極殿齋講事畢。僧綱引名僧、有智僧等、奉參内裏、論義如常。賜被。〔三実〕

401 仁和二年889四月八日

於仁壽殿、灌仏如常。〔三実〕

402 仁和二年889十月六日

詔左右檢非違使、免輕重罪繫囚廿二人、喚梵釈寺十善師郎善奉加持。〔三実〕

*場所の明記を欠くが、採用。

403 仁和二年889十月十一日

延屈延曆寺座主内珍於紫宸殿、修護摩法。限以五日、祈帝病平癒也。〔三実〕

404 仁和二年889十二月十九日

於仁壽殿、始修弘名懺悔。限三日訖。〔三実〕

405 仁和三年889正月八日〜十四日

壬午、於大極殿、始齋講最勝王経。以東大寺僧法相宗伝燈大法師位平仁、為講師。雅楽寮孝音楽、如常。戊子、大極殿齋講事畢。僧綱引名僧、奉參内裏、於御前論弘理。施御被而罷。〔三実〕

406. 仁和三_{三〇〇}年三月二十六日

延_三僧八十口於紫宸殿、_三転_三読_三大_三般_三若_三経_三。限以三日。〔三実〕

407. 仁和三_{三〇〇}年八月十七日、十八日

戊午、(中略)又明日可_レ修_三転_三經_三之事。仍諸寺衆僧被_レ請、来_レ宿_三朝_三堂_三院_三東_三西_三廊_三。夜中不_レ覺聞_三騒_三動_三之_三声_三、僧侶_三競_三出_三房_三外_三。須與事靜。各問_三其_三由_三、不_レ知_三因_レ何_レ出_レ房。彼此相_レ恠云、是自然而然也。

己未、延_三宿_三德_三名_三僧_三百_三口_三於_三紫_三宸_三大_三極_三兩_三殿_三、_三転_三読_三大_三般_三若_三経_三。限_三三_三箇_三日_三。攘_三災_三異_三、祈_三年_三穀_三也。〔三実〕

索引凡例

一、史料本文利用の便を考慮し、I場所、II仏事・經典名など、III僧侶名の三部に分けて索引を作成した。

一、項目の配例は、三部ともそれぞれ初見順とし、出所は史料本文に付した通し番号をもって示した。()内は、必要に応じて前後の語句、またIIの仏事・經典名では実修の日数、講・読・転読等の別、さらに立項名とは異なる名称である場合に参考として記したものである。

一、IIのうち、項目名に()を付したものは、便宜上の略称で、原史料通りではないことを示し、逆に、出所箇所を示す番号に()を付したものは、項目名通りに史料原文には出ていないことを示している。

一、その他、適宜類推されたい。

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

〔索引I〕 場所

内裏 用明1、孝徳4・5、天智7、持統20・21・22・23、聖武28、光仁50、桓武53、平城70・71、嵯峨79、淳和81・88、仁明100・106・117・123・138・151・155、文徳177・196・199
 ・201、清和213・255・261(本宮)・263・264・274・280
 ・288・295・302・310・322・328・330・336・陽成349・350・351・359
 ・365・376・381・385、光孝392・400・405

岡本宮 推古2
 味経宮 孝徳3
 難波長柄豊碓宮 孝徳3
 内裏仏殿之南 天智8
 内裏西殿織仏像前 天智9
 宮中 天武10・11・12・13・14・15・16・17・19、聖武26・30
 ・31・32(十五処)・39、孝謙41・42・43、称徳46
 ・48、光仁49・51・52、桓武54・56・61、平城72、嵯峨74、淳和85、仁明107・122・125

宮中御窟院 天武18
 春宮・東宮 持統24、桓武57・59(朝堂)・61(坊)、平城69、文徳166・168・170・172・174・176、清和204・207・210
 (雅院)・211・212・215・217(御在所)・219
 (北殿)・220・221・239(雅院)・254(内殿)・289、光孝386・387(前殿)

御在所 文武25(太上天皇)、淳和86、清和214・227・246、陽成343・354、光孝390

中宮 聖武27、文徳166、清和241

朝堂 聖武29、光仁50・51

大極殿 聖武33、称徳45、平城69、淳和86・87・89・91・92、仁明99・102・104・109・111・113・118・123・128・132・133

・135・136・137・138・140・142・144・146・151・155、文徳165・167・171・175・180・181・183・185・186・188、清和206・214

・224・231・233・238・246・253・264・270・274・280・288・290
 295・299・302・306・310・313・315・316・322・330・331・333・405

336、陽成359・365・371・376・381・385、光孝392・394・400・405

紫香楽宮 聖武34

大安殿 聖武34・36

難波宮東西楼殿 聖武35

内道場 聖武37、称徳47

南苑 聖武38

中宮安殿 孝謙40

西宮寝殿 称徳44

新宮 桓武55

禁中 桓武57・58・59、淳和93、仁明113・118・128・132・134(本宮)・144・146、文徳187

殿上 桓武62・64・65、嵯峨77、淳和84、仁明101・109、文徳200

紫宸殿・紫雲殿 桓武 63、淳和 95、仁明 103、109、110、115、

120、135、141、143、152、159、162、清和 250、265、269、271、272

・ 275、277、278、279、281、283、284、286、292、293、296、298、

300、303、305、307、308、311、312、314、317、318、319、320、323

・ 325、326、327、331、332、333、337、340、陽成 346、347、

352、356、369、366、368、369、372、374、377、379、382、383、光

孝 393、396、403、406、407

前殿 桓武 66、67、嵯峨 78

寢殿 平城 68

諸司左右京職 平城 70

小安殿 嵯峨 73

太政官 嵯峨 76、清和 259 (―曹司庁)・260 (―庁亭)・268

(―候庁)

城内・城中 淳和 80、仁明 148

皇后院 淳和 82

清涼殿 淳和 83、仁明 108、117、124、127、136、141、147、149、

152、154、156、160、164、文徳 165、168、陽成 348、363、364、373

・ 375、378

青春鳳樓 淳和 85

紫徽極殿 淳和 85

御所 淳和 93、清和 328、陽成 379

八省院 淳和 90 (―中庭も)、仁明 103 (―諸堂)・110、114

・ 116、119、129、131、139、145、152、153、文徳 201、清和 339

わが国宮廷における伝事に關する編年史料

(―含章堂)、陽成 352

闕庭 仁明 98

宮城諸司諸局 仁明 103

常寧殿 仁明 103、112、120、121、130、136、141、147、文徳 200、陽成

370

寢禮門 仁明 103、清和 258

仁寿殿 仁明 111、159、清和 267、275、282、陽成 344、362、383、光孝

388、391、395、397、398、399、401、404

真言院 仁明 137、141、150

王城中 仁明 148

御兼外 仁明 158

御兼内 仁明 152

豊樂院・豊樂殿 仁明 151、清和 331、陽成 343、351

庭中 仁明 164

紫宸殿南庭 仁明 164

宮城 文徳 173

冷然院 文徳 178、183、184、185、186 (―新成殿)・189、190、192

・ 193、195、198 (―南殿)・202、203

御前 文徳 191、清和 206、陽成 382、光孝 405

書堂 文徳 194

内殿 清和 205、208、216、224、225、226、229、230、232、234、236

・ 237、238、240、241、242、243、244、245、247、248、249、251、

252、253、256、257、262 (―裏)・273、287、304、315、324、328、

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

陽成 384

院裏 清和 218

淳和院 清和 218

東五条宮 清和 222

五条宮 清和 228

諸司諸所 清和 255

山城国河陽離宮 清和 266

東京宮 清和 285

宮中修法院持念堂 清和 329

承明門東西廊 清和 338

凶書寮 清和 341

清和院 陽成 345・355・361

太皇太后宮 陽成 357

弘徽殿 陽成 358

綾綺殿 陽成 380

闕 光孝 389

諸殿諸司、十二門、羅城門 光孝 396

朝堂院東西廊 光孝 407

〔索引Ⅱ〕 仏事・經典名など

法華經 推古 2 (講)、仁明 149 (講)・154 (講)・160 (講三日)、

清和 218 (講五日)・222 (講五日)・228 (講四日)、陽成 345

(講五日)・355 (講三日)・361 (講三日)

一切経 孝徳 3 (説)

安宅・土側等経 孝徳 3 (説)

(燃燈) 孝徳 3・5、仁明 164

無量寿経 孝徳 4 (講)

大捨 孝徳 5

設齋 孝徳 5、天武 12・18、持統 20、孝謙 41、称徳 44、桓武 67

仁王会 斉明 6 (仁王般若之会)、聖武 29・33、孝謙 40・41・

42、称徳 46、光仁 49、淳和 39、仁明 103・105・108、文徳

173・187・197、陽成 354、光孝 396

* () 付は、「仁王会」の語句は無いが、『類聚国史』仏

道部四・仁王会の項に収められているもの。

(百仏開眼) 天智 7

(出家) 天智 8、聖武 39 (度)、称徳 48 (度)、嵯峨 74 (得度)、

仁明 152 (得度)・164 (度)、文徳 200 (落髮入道)

金光明経 天武 10 (説)・17 (説)

安居 天武 11・13・15、持統 21 (—講説)

金剛般若経 天武 14 (説)、聖武 27 (転説)、桓武 57 (転説)、

淳和 81 (奉説)・94 (奉説)、仁明 134 (転説三日)・150 (転

三日)、文徳 133 (転説三日)、清和 258 (転説)・268 (転説三

日)、陽成 352 (転説三日)、光孝 397 (転説三日)

海過 天武 16

観音経 天武 19 (説——二百卷)

無遮大会 持統 22・23・24、聖武 36

大般若經 聖武26 (読誦)・30 (転読)・31 (読)・32 (転)・34
 (転読)・35 (読)・孝謙43 (転読)・称徳45 (転読)・光
 仁50 (読)・51 (読)・52 (転読)・桓武59 (奉読)・61
 (読)・平城69 (奉読)・淳和86 (転読)・87 (転読三日)
 ・89 (転読三日)・90 (転読三日)・92 (転読七日)・96
 (読)・仁明99 (転読三日)・104 (転読三日)・延二日・110
 (転読七日)・111 (転読五日)・119 (転三日)・120 (転読)
 ・131 (読三日)・133 (転読三日)・延二日・134 (転読三
 日)・136 (転三日)・137 (転読)・135 (転読)・141 (転読
 五日)・142 (転読三日)・延四日)・147 (転読五日)・152
 (転読)・153・159 (転読三日)・162 (転読三日)・文徳165
 (転読三日)・166 (転読三日)・167 (転読)・168 (転読三
 日)・170 (転読)・171 (読)・172 (転)・174 (転読三日)・
 175 (転読三日)・177 (読三日)・178 (読三日)・180 (転
 読)・183 (読)・185 (読三日)・186 (転読三日)・189 (転読
 五日)・190 (転読四日)・192 (転読三日)・193 (転読五日)
 ・195 (転読三日)・196 (転読七日)・198 (転読七日)・199
 (転読)・201 (転読三日)・202 (読五日)・清和204 (転読
 三日)・205 (転読八日)・207 (転読三日)・209 (転読三日)
 ・211 (転読三日)・212 (転読三日)・215 (転読三日)・217
 (読三日)・220 (転読三日)・221 (転読三日)・225 (読三日)
 ・227 (転読三日)・延二日)・229 (転読三日)・230 (転読三

日)・232 (転読三日)・233 (転読三日)・235 (転読三日)・236
 (転読三日)・241 (転読三日)・243 (転読三日)・244 (転読三
 日)・245 (転読三日)・247 (転読三日)・249 (転読三日)・
 250 (転読三日)・251 (転読三日)・254 (転読五日)・257 (転
 読三日)・259 (転読三日)・260 (転読三日)・261 (転読三
 日)・265 (転読三日)・266 (転読六日)・經二部)・269 (転
 読三日)・270 (転読三日)・271 (転読三日)・272 (転読三
 日)・275 (転読三日)・277 (転読三日)・278 (転読三日)・
 279 (転読三日)・281 (転読三日)・283 (読三日)・284 (読
 三日)・286 (転読三日)・289 (転読)・290 (転読三日)・292
 (転読三日)・293 (転読三日)・296 (転読三日)・298 (転読
 三日)・299 (転読三日)・300 (転読三日)・303 (転読三日)
 ・305 (転読三日)・306 (転読三日)・延三日)・307 (転読三
 日)・308 (転読三日)・311 (転読三日)・312 (転読三日)・
 313 (転読三日)・314 (転読三日)・315 (転読三日)・317 (転
 読三日)・318 (転読三日)・延二日)・319 (転読三日)・320
 (転読三日)・323 (転読三日)・325 (転読三日)・326 (転
 読三日)・327 (転読三日)・331 (転読三日)・332 (転読三
 日)・333 (転読三日)・延二日)・334 (転読三日)・337 (転
 読三日)・338 (転読三日)・340 (転読三日)・陽成346 (転
 読三日)・347 (転読三日)・352 (転読三日)・356 (転読三
 日)・360 (転読三日)・366 (転読三日)・368 (転読三日)・
 369 (転読三日)・372 (読三日)・374 (読三日)・377 (転読

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

わが国宮廷における仏事に関する編年史料

三日)・379 (転説三日)・382 (転説三日)・383 (転説三日)、
光孝387 (転説三日)・393 (説三日)・406 (転説三日)・407
(転説三日)

最勝王経 聖武32 (転)・33 (講金光明——)

*齋会・最勝会・齋講・(御齋会) は別項あり。

叙位 桓武53

薬師経 桓武54 (説)、仁明127 (説)・136 (説三日)

仁王経 桓武55 (講)、平城70 (講説)、嵯峨78 (講)、仁明115
(講、同経百卷)、陽成347 (転二日)

*仁王会は別項あり。

薬師悔過 桓武56

灌頂経法 桓武57

齋講・齋会・最勝会 (御齋会) 桓武60 (正月最勝王経)、嵯
峨74・77 (最勝王経講)、淳和84・91 (説最勝王経)・95

・97、仁明102 (講最勝王経)・107 (金光明会)・109・111・
113・118・122・123・123 (金光明会)・128・132・135・138・140

・144・146・151・155・157、文徳181 (説最勝王経)、清和206
・214・224・231・238・246・253・264・274・280・288・295・302・

310・319 (講最勝王経)・322・330・336、陽成343・351・359・
365・371・376・381・385、光孝392・394・400・405

灌頂法 桓武62

五仏頂法 桓武63

悔過読経 桓武64

毗盧舎那法 桓武65

読経 桓武66 (三日)、平城71・72、淳和80 (七日)、仁明112・
129・130・143・145 (三日)

七七御齋 平城68、文徳165 (先皇七々日御齋会)

薬師法 嵯峨73・76、仁明136 (三日)

侍上病 嵯峨75、仁明101、文徳103

論義・論議 嵯峨77、淳和84・95・97、仁明110・111・113・
123・128・132・135・138・144・146・151・155、文徳191、清和206

・214・224・238・246・253・264・274・280・288・295・302・310・
322 (論仏理)・330・336、陽成343・351 (論仏義)・359・365・

371 (停——之儀)・376・379・381・382・383・385・392・
400・403 (論仏理)

真言卅七尊梵号 嵯峨79 (誦)

息災之法・息災法 淳和82、仁明121・150 (三日)、清和219 (三
日)

大通方広之法、淳和83

(仏舎利の礼拝灌浴) 淳和88

仏名経 淳和93 (懺礼)、仁明108 (礼拝)

仏名懺悔・礼懺・礼仏懺悔 淳和93、仁明117・156、文徳169・179
・182、清和205 (三日)・212・223・237・252・263・273・287 (三

日)・294 (——之事)・301・309・315 (三日)・321 (——之
事)・328・335、陽成342 (停——之事)・350 (——之事)・

358 (三日)・364・370 (三日)・375 (三日)・380 (三日)・384

(三日)、光孝391(三日)・399(——之事、三日)・404(三日)

衆僧暴露至心誓願 淳和96

賀踐祚 仁明98、光孝389

転経 仁明100、清和339

(後七日御修法) 仁明105

進仏舎利 仁明106

礼仏 仁明109

悔過 仁明112

金剛壽命陀羅尼経 仁明116(転読、御讀奉享——千軸)

灌仏 仁明124、清和268・216・226・234・242・248・256・267・276・282

・291・297・304・324、陽成353(停……之儀)・362・367(停

——之儀)・373・378・光孝390・395・401

結界悔過 仁明127

修法 仁明137、文徳194、清和210(十二日)・236(七日)・239(七

日)・240(七日)・262、陽成344(三日)・348(七日)・363

(三日)、光孝388(五日)

陀羅尼法 仁明141(五日)

真言法 仁明147

十一面法 仁明150(三日)

四卷金光明経 仁明156(講、演説)

加持 仁明153、光孝402

文殊八字法 仁明159

わが国宫廷における仏事に関する編年史料

護摩法 仁明161、光孝403
(受戒) 仁明163・164、清和213・218(太皇太后)・228(太皇太

后)・255

七仏薬師法 仁明164

修法印呪 文徳168(三日)

侍東宮 文徳176

受内都灌頂 文徳184

般若波羅蜜多理趣経 文徳200(写)

灌頂 文徳200、清和228(太皇太后受——)

大斉会 清和218、陽成345・361

斎講・斎会(いわゆる御斎会以外の) 清和218(五日)・222、

陽成345・355・361

般若心経 清和255(読)・277(読)

秋季御読経・秋季読経 清和259、陽成347

薰修講経・講経薰修 清和285、陽成357

孔雀経 清和331(転読)

灌頂経 清和331(転読)

設僧房 清和338

(経典安置) 清和341

結界修法 陽成349(五日)

慶賀天皇 光孝386・389

(衆僧宿泊) 光孝407

〔索引Ⅲ〕 僧侶名

豊国法師 用明 1
 皇太子 推古 2
 惠隱 孝徳 4
 惠資 孝徳 4
 義淵 聖武 28
 道慈 聖武 33
 堅蔵 聖武 33
 玄昉 聖武 37
 道鏡 称徳 47
 尊鏡 桓武 53
 円澄 桓武 63、淳和 97
 最澄 桓武 64・65
 光定 嵯峨 74、仁明 154・160
 真雅 嵯峨 79
 空海 淳和 82・83・88・95
 長恵 淳和 83
 勤藻 淳和 83
 延祥 淳和 91
 道昌 淳和 93、仁明 117・154、清和 206・328
 護命 淳和 95
 修円 淳和 95

豊安 淳和 95
 明福 淳和 95
 大覚 淳和 95
 願安 仁明 117
 願定 仁明 117
 静安 仁明 117・124
 実敏 仁明 117・132・154・160
 願勤 仁明 154
 真頂 仁明 158
 観善 仁明 158
 円仁 仁明 159、文徳 184、清和 213・218・228
 明詮 仁明 160
 円鏡 仁明 160
 高向朝臣公輔 文徳 176 (出家中)
 道詮 文徳 191
 明哲 清和 214
 春徳 清和 224
 長賢 清和 231
 興照 清和 238
 賢応 清和 246
 興智 清和 253
 平恩 清和 264
 平智 清和 274

法勢	清和	280
長朗	清和	288
円宗	清和	295
豊栄	清和	302
長源	清和	310
玄永	清和	316
薬仁	清和	322
	・	326
隆海	清和	330
安春	陽成	343
孝忠	陽成	351
義叔	陽成	359
承靈	陽成	363
円珍	陽成	363、
	光孝	403
基秀	陽成	365
平智	陽成	365
隆光	陽成	371
安海	陽成	376
房忠	陽成	381
峯基	陽成	385
延保	光孝	392
遍照	光孝	398
栄仁	光孝	400
郎善	光孝	402

平仁
光孝
405

わが国宫廷における仏事に関する編年史料